

ISSN 2185-4440

自治医科大学看護学部年報 (第11号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第7号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2012

目 次

○ 特別報告

看護学研究科博士後期課程の開設

学部長兼研究科長 春山 早苗 …… 5

○ 活動報告

看護学部新カリキュラムがめざすもの

成田 伸 …… 13

○ 看護学部委員会等報告

人事委員会

春山 早苗 …… 19

教務委員会

成田 伸 …… 20

学生委員会

大塚公一郎 …… 21

FD評価実施委員会・研究推進委員会

本田 芳香 …… 23

広報委員会

永井 優子 …… 25

編集委員会

中村 美鈴 …… 27

国家試験対策委員会

渡邊 亮一 …… 29

臨床実習指導研修委員会

塚原 節子 …… 31

入試実施委員会

中島登美子 …… 32

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

研究科委員会

春山 早苗 …… 35

研究科委員会幹事会

中村 美鈴 …… 37

○ 教育研究分野別報告

看護基礎科学…………… 41

基礎看護学…………… 44

地域看護学…………… 45

精神看護学…………… 48

母性看護学…………… 50

小児看護学…………… 53

成人看護学…………… 55

老年看護学…………… 58

○ **大学院看護学研究科 教育の概要**

博士前期課程

実践看護学分野

母子看護学領域「小児看護学」	63
母子看護学領域「母性看護学」	64
健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」	65
健康危機看護学領域「精神看護学」	66
がん看護学領域「がん看護学」	67

地域看護管理学分野

老年・地域看護管理学領域「老年看護管理学」	69
老年・地域看護管理学領域「地域看護管理学」	70
共通科目	71

博士後期課程

広域実践看護学分野	73
-----------	----

○ **研究業績録**

看護基礎科学	77
基礎看護学	79
地域看護学	80
精神看護学	82
母性看護学	83
小児看護学	84
成人看護学	85
老年看護学	87

○ **資料**

2012年度（平成24年度）看護学部学年暦	91
自治医科大学看護学部の概況	92
看護学部教職員名簿	93
2012年度（平成24年度）大学院看護学研究科学年暦	94
大学院看護学研究科の概況	94
大学院看護学研究科教職員名簿	95
編集後記	96

特別報告

特別報告「看護学研究科博士後期課程の開設」

看護学研究科 研究科長 春山 早苗

1. 博士後期課程設置の基本方針

本学は、医療の恩恵に浴する機会が少ないへき地や離島を含む地域に住む人々の医療を確保するとともに、これらの地域の住民の健康の増進、福祉の充実を目指す医師の養成を目的として1972（昭和47）年に設立された。

看護学部はこの建学の理念を看護の立場から実現するために、高い資質と倫理観を持ち高度な医療と地域の看護に従事できる看護職者を育成することを目的として、2002（平成14）年に開設された。

2006（平成18）年には、地域の保健医療福祉の向上に寄与するため、看護学の高度な専門知識や技術を有し、看護管理と実践的教育研究を通じて地域のケアニーズに即した看護活動を改革できる看護職者を育成することを目的に看護学研究科看護学専攻修士課程を設置した。修士課程では5つの専門看護分野（母性看護、小児看護、クリティカルケア看護、がん看護、精神看護）において専門看護師教育課程の認定を受け専門看護師（CNS）として活躍できる人材と、超高齢社会において看護管理者として活躍できる人材という専門的な看護の知識・能力をもつ高度専門職業人の育成に取り組んでいる。修了生は専門看護師や看護管理者、大学教員等として活躍している。

我が国では、少子化・超高齢社会という人口構造の変化や社会構造の変化、経済の低成長、国際化の進展などを背景に、人々の保健医療福祉ニーズは多様化している。こうした社会の変容に対応すべく、21世紀における社会保障の重要施策の方向を展望する報告書を基に1995（平成7）年「社会保障体制の再構築」という勧告が示された。その後、介護保険制度の創設を契機として、現在に至る10数年間の保健医療福祉制度改革は目覚ましい状況にある。

このような画期的な改革は、医療の高度化・効率化により入院期間の短縮化を促進したが、一方では病気を抱えた人々が治療を終えても、慢性化や障害により医療依存度が高い状態で療養場所を在宅へと移行することを余儀なくされている。それらに対応するために、居住地域における地域医

療体制や保健福祉資源などの療養環境をアセスメントし、退院後の療養生活上に必要となる支援を確保しながら、高度な看護ケアを実践することが求められている。とりわけ医療依存度の高い人々や必要な医療などのサービスに自らアクセスすることが困難である人々に対して質の高い保健・医療・看護を実現するためには、関係機関の他職種と協働しながら行うヘルスケアマネジメントが重要であり、看護職者には「チーム・ケアのキーパーソン」として活躍することが求められる。また、一定の保健医療圏域などにおけるヘルスケアサービスのシステム化へ向けた活動も必要であり、この点についても看護職者が果たす役割は大きい。しかし現実には、こうした看護職者に期待される役割は十分に発揮されているとは言えず、特に、全国の病院のおよそ7割を占める200床未満の、いわゆる地域中核病院においては、医師や看護師不足の現状からこうした活動が困難になりやすい傾向にある。

こうした高度専門医療と地域医療が直面している課題と地域社会の変容から、人々の多様化かつ複雑化しているニーズに対応するためには、個々の対象への看護体制だけではなく、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れて、システムの現状とその限界や発展可能性を考慮しつつ、複数の看護専門領域にわたる広域的な視座から看護実践の課題を捉え、その課題に対応するための高度な看護実践を開発できる優れた研究能力を備えた教育研究者の育成が急務である。

ここでいうヘルスケアシステムとは、人々の生命・健康・福祉を守り、生活の基盤となる保健・医療・福祉サービスを提供する組織化された仕組みをいい、看護提供システムはヘルスケアシステムの下位システムとして機能するものである。ヘルスケアシステムは様々な組織によって提供されており、ヘルスケアシステムを構成する保健・医療・福祉資源の質・量は地域や文化・歴史などの特性によって多様性をもつ。それらを視野に入れて看護実践の課題を捉えることによって、より高度な看護実践の開発につながると考えられる。高

度な看護実践とは、社会の変化に応じて人々のニーズを充足するための科学的根拠に基づいた看護ケアと、そのような看護ケアを効果的かつ効率的に提供することを具現化するためのヘルスケアシステムや看護提供システムの構築、並びに、施策・政策化に関わる優れた看護実践のことである。

本学大学院看護学研究科博士後期課程は、前述した保健・医療・看護を取り巻く課題を踏まえて、看護系大学において教育研究活動を担う能力のある教育研究者の育成を、新たに目指すために設置された。これまで本学大学院看護学研究科修士課程において培ってきた教育研究を継承しつつ、従来の修士課程を博士前期課程とし、新たに博士後期課程を2012（平成24）年4月に開設した。

2. 看護学研究科の目的と博士後期課程のねらい

看護学研究科の教育目的は、豊かな学識と高度な研究能力を身に付け、地域の保健医療及び福祉の向上や看護学の発展に指導的な役割を果たす人材を養成することである。

博士後期課程の専攻分野は、博士前期課程における5つの看護専門領域の専門看護師に求められる高度な看護実践能力の育成を目指す「実践看護学分野」と、ヘルスケアシステムを視野に入れた看護提供システムの構築・改善に寄与する人材の育成を目指す「地域看護管理学分野」の両分野で探究してきた教育研究を相補しつつ深化させた分野である『広域実践看護学分野』の一分野である（図1）。

具体的には、博士前期課程における「実践看護学分野」を、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れて、複数の看護専門領域にわたる広域的な視座から看護ケアの課題を捉えることにより、ヘルスケアシステムの現状と人々のニーズに即した優れた看護ケアの開発を追究できる広域実践看護学分野へと発展させた。また、博士前期課程における「地域看護管理学分野」を、複数の看護専門領域にわたる広域的な視座から看護ケアの課題も併せてヘルスケアシステムや看護提供システムの課題を捉えることにより、看護ケアを効果・効率的に提供することを具現化するためのシステムやヘルスケア施策・政策化に寄与する看護実践の開発を追究できる広域実践看護学分野へと発展させた。

つまり、『広域実践看護学分野』では、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発と、その看護ケア

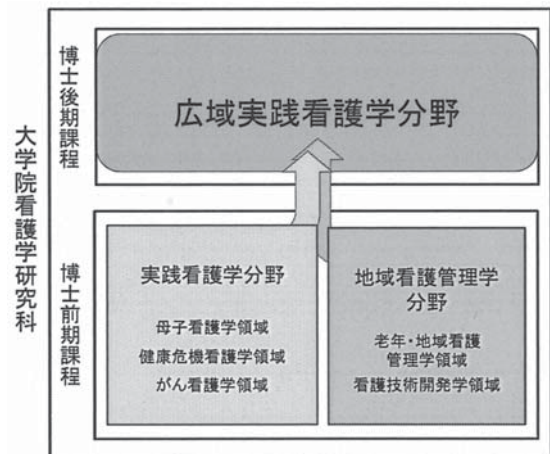


図1 博士前期課程と博士後期課程の関係概念図

を効果・効率的に提供することを具現化するためのヘルスケアシステムや看護提供システムの構築、並びに、施策・政策化に関わる看護実践の開発を、複数の看護専門領域にわたる広域的な視座から追究する教育研究を行う。

3. 博士後期課程における人材育成の方針と教育目標

少子高齢化の進行した我が国の看護職者には、病気を抱えた人々が必要に応じた医療を受けながら高い生活の質を確保できるための支援を提供することが期待される。人々のニーズが多様化かつ複雑化している現在、入院している患者の看護ケアの課題であっても、看護管理学や地域看護学の知見を併せた検討が必要であり、クリティカルケア看護学の実践課題であっても、精神看護学や地域看護学の知見を併せた検討が必要となっている。

このため、現状の看護実践の評価を研究的な取り組みにより明らかにし、看護実践を改善及び開発するためには、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れ、複数の看護専門領域にわたる広域的な視座が求められる。

このような背景を踏まえ、高度専門医療と地域医療が直面している課題と地域社会の変容により人々の多様化かつ複雑化しているニーズに対応するために、看護学研究科博士後期課程の教育目標は、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者を育成することである。

4. 教育課程の構成と特徴

1) 広域実践看護学分野における教育の基本的な

考え方

『広域実践看護学分野』は、個人に提供される看護ケアの質と個人が属する地域のヘルスケアシステムの整備状況や機能性は相互に影響し合うとの考えに基づき、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム並びに、施策・政策化に寄与する看護学の教育研究を行う分野である。『広域実践看護学分野』の考え方から、以下のような教育研究力を培うことを目指して、博士前期課程の2分野を相補的に深化させた教育内容の科目により教育課程を構成した。

- ・複数の看護専門領域の視座から従来の知見を踏まえ、看護実践を基盤とした新たな知見を創出できる力
- ・学際的な分野への対応能力を含めて、看護実践に即した研究を自立して企画・推進できる力
- ・研究的手法を用いてヘルスケアシステムや看護提供システムを評価できる力

・看護実践能力や研究能力を付与できる力

2) 教育課程の構成 (図2)

(1) 専門科目

専門科目として、広域実践看護学特論Ⅰ～Ⅳ及び広域実践看護学演習、広域実践看護学特別研究を置いている。

①広域実践看護学特論Ⅰ～Ⅳ

「広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）」、「広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）」、「広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルスケア研究法）」、「広域実践看護学特論Ⅳ（看護教育・管理研究法）」は講義科目であり、主として教員による講義と学生のプレゼンテーション、討議により展開する。

「広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）」を必修科目とし、看護ケアを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステムや看護提供システムに関わる問題と、それに対する研究的アプローチを学修する。加えて、選択科目である「広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）」、「広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルス

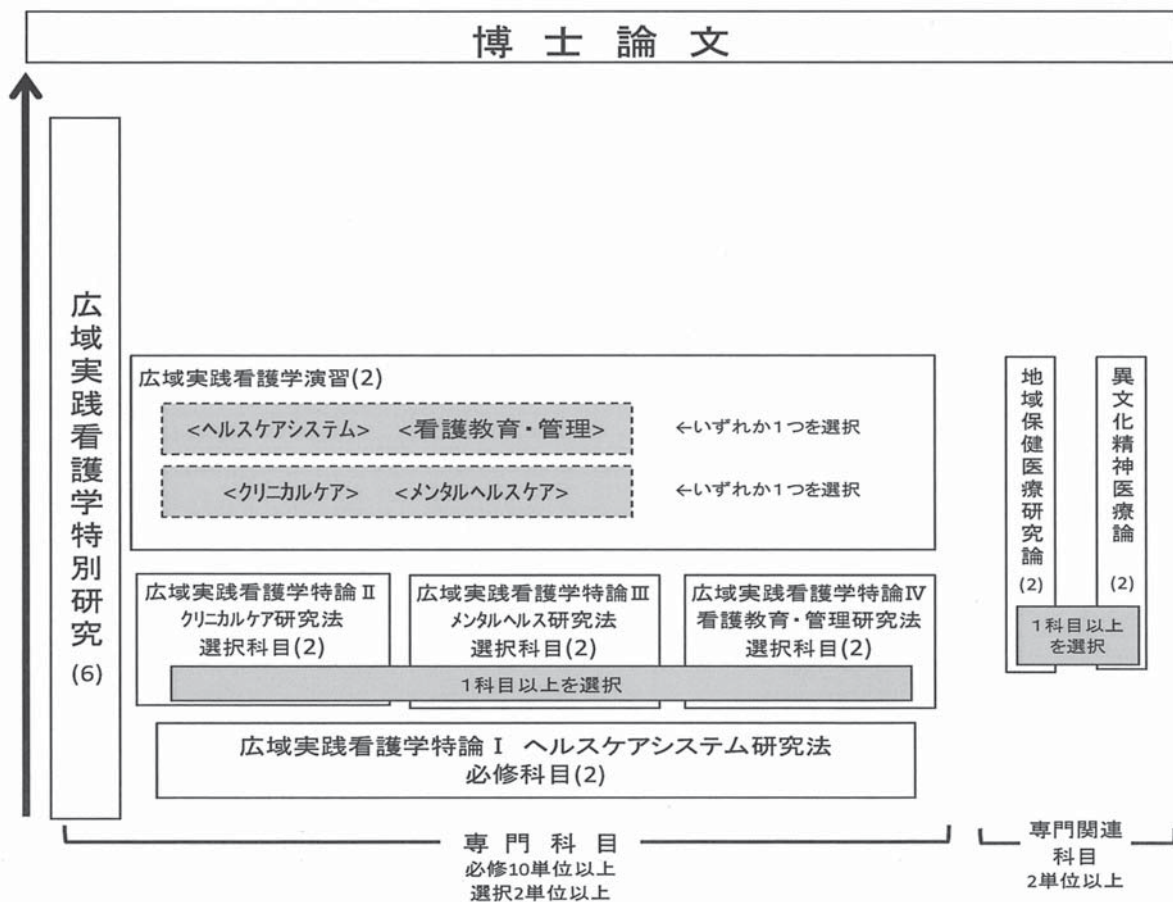


図2 教育課程の構造 ()内は単位数

ケア研究法)], 「広域実践看護学特論Ⅳ (看護教育・管理研究法)」を1科目以上履修することとし、複数の看護専門領域の視座を理解して自らの研究テーマに関わる看護ケアの問題と、それに対する研究的アプローチを学修する。これら必修科目と選択科目を併せて履修することによって、看護に関する問題の全体像と本質を捉えた上で、研究課題と研究方法の探究を行う。

②広域実践看護学演習

「広域実践看護学演習」は必修科目である。＜ヘルスケアシステム＞、＜クリニカルケア＞、＜メンタルヘルスケア＞、＜看護教育・管理＞の4つのテーマを設け、各テーマは15回(30時間)とする。このうちシステムに関するテーマである＜ヘルスケアシステム＞と＜看護教育・管理＞からひとつ、看護ケアに関するテーマである＜クリニカルケア＞と＜メンタルヘルスケア＞からひとつを選択する。広域実践看護学特論の学修を踏まえて、研究課題の絞り込みを進め、自らの研究課題につながると考える演習テーマをシステムと看護ケアという面から選択し、看護の対象を取り巻くヘルスケアシステムを視野に入れつつ、ヘルスケアシステムや看護提供システムと看護ケアの課題を結びつけて学修目的を達成できるようにする。

教育指導は、4つの各テーマを2～3名の教員で担当し、実践現場の看護職者との討議も加えて展開する。但し、第15回目、第30回目は、全大学院生、全担当教員参加によるゼミ形式で行い、博士前期課程の大学院生の参加も促し、ディスカッションをする。

③広域実践看護学特別研究

「広域実践看護学特別研究」は1年次から3年次にかけて継続して履修する必修科目である。主研究指導教員のほか、2名の副研究指導教員を置く。

大学院生は主研究指導教員と副研究指導教員の指導を受けながら、博士論文の作成に向けたコースワークの設定を行い、自らの研究テーマに関する看護学及び関連分野の国内外の先行研究に関する情報を収集し、研究を概観するとともに研究成果の現状と課題を把握する。そのうえで、研究計画を立案し、研究活動を展開、博士論文を作成する。

本科目の一環として、博士前期課程・後期課程合同研究セミナーを年4回、定期的に開催し、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討などについて、大学院生相互にプレゼンテー

ションを行う機会を設ける。これにより、博士前期課程実践看護学分野の5つの看護専門領域において高度な看護実践を追究することを目指している大学院生、及び地域看護管理学分野において地域社会のニーズに適応させて、保健医療福祉サービスの効果的な提供が図れる優れた行政的能力や医療機関などの組織機能の拡大発展に貢献できる看護管理者を目指す大学院生との情報交換を行い、看護実践現場やヘルスケアシステムの現状と課題を踏まえた実践的な研究課題を設定できることを期待するものである。

(2) 専門関連科目

広い視野と深い洞察力、総合的な判断能力と看護の新たな概念・知識体系を構築するための基盤を養い、地域保健医療研究や異文化研究の視座を身につけて、研究方法を探索できるために、看護学以外の分野の知見や研究方法を学修する。

「地域保健医療研究論」と「異文化精神医療論」の2科目で構成され、いずれも選択科目である。主として教員による講義と学生のプレゼンテーション、討議により展開する。

5. 修了要件と学位

修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、専門科目のうち必修科目から10単位及び選択科目から2単位以上、専門関連科目の選択科目から2単位以上の合計14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。大学院生が博士論文の審査を受けるためには、看護学研究計画審査会に合格し、主研究指導教員と副研究指導教員の承認を得て、博士論文、副論文1編以上、その他の必要な書類を提出しなければならない。

学位の名称は博士(看護学) < Doctor of Science in Nursing: DSN >である。

6. アドミッション・ポリシー

博士後期課程のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

- ・人々の生命・健康・福祉を守り、生活の基盤となる保健・医療・福祉サービスを提供する組織化された仕組みの整備状況、機能性、課題を踏まえ、看護学の教育研究活動の未来を切り拓く熱意のある人

- ・地域社会の変容を背景とした地域医療及び高度専門医療が直面する課題に対し、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れ、複数の看

護専門領域の視座から理解し、看護実践を開発できる優れた研究能力を身につけ、看護学の教育研究活動に貢献したい人

・科学的な根拠に基づく看護ケアの開発や看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、施策・政策化に寄与し、看護学の発展に貢献できる新たな提言をしたい人

活動報告

活動報告「看護学部新カリキュラムがめざすもの」

教務委員長 成田 伸

1. 新カリキュラムの編成方針と保健師・助産師教育の継続

本学部のカリキュラムは平成20年度に一度改定し、平成24年度に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更を受けて、再度新しくなった。

新カリキュラムの改訂作業は平成23年度に行ったが、その際に重視したのは以下の4点である。なお、本学では平成20年度のカリキュラム改訂時点から、この方針を掲げており、それは、日本看護系大学協議会が平成16年に公表した学士課程における看護学教育の特質に則り、看護師・保健師・助産師に共通した看護学の基礎を教授する課程であること目指すものであった。平成24年度の新カリキュラム編成においても、同じくこの方針を適用し、カリキュラムを編成している。

- ①統合カリキュラムとしての充実
- ②本学の理念に基づいた特徴あるカリキュラムと教育目標を実現するカリキュラム
- ③看護の大学教育としての水準を保つカリキュラム
- ④看護学の学習の効率化を図り、4年次に専門科目の総まとめや将来展望も見すえて、看護を創造的に学ぶことができるカリキュラム

平成24年の指定規則の変更として大きかったのは、学士課程での保健師教育が必修でなくなったことである。そのため平成24年4月に多くの看護系大学で保健師教育が選択制となった。しかし本学部のカリキュラムは、従来より、看護師・保健師・助産師に共通した看護学の基礎を教授する統合カリキュラムとして編成されており、保健師教育を必修として残し、卒業時点で保健師国家試験受験資格を得ることができることを継続していくこととした。また、助産師教育についても、選択した学生は助産師の国家試験受験資格を得ることができることを継続することにした。

他大学と異なるこのような選択は、本学部の、高度な医療や地域住民の保健医療福祉に貢献できる総合的な看護職の育成という目的を追求していくために不可欠であると考えたためである。本学部は、看護師・保健師・助産師のどの職種で働い

ても、どの場で働いても、常に人々の地域社会生活を考慮して、より良い看護実践を追求できる人材の育成を目指している。また、複数の資格取得を活かし、多様なキャリアパスを選択しながら、看護職の不足している地域・機関等において様々な形で貢献できる人材の育成を目指しているためである。

平成24年度の指定規則の変更では、保健師教育・助産師教育共に、実習を中心に単位数の増加も指定された。本学においてもその趣旨に沿う方向で単位数の修正を行っている。

2. 新カリキュラムの特徴

本学部では、カリキュラム編成方針の実現に向けて、新カリキュラムを【基礎科学分野】、【看護学分野】、【総合分野】の3分野で構成し、【総合分野】において【基礎科学分野】や【看護学分野】で学んだ知識や技術を総合するように編成している。このカリキュラムを通して、看護実践を創造的に追求していくための基礎能力を身につけることをめざしている。

【基礎科学分野】は、多様な学問分野にふれることにより一般教養を身につけ、広い視野での見識や多様な価値観を学ぶことをめざし、『人間の本質の理解』『自然の成り立ち』『生活・社会の成り立ち』から構成されている。

『人間の本質の理解』では、人間の存在と活動の様々な側面と価値観を学ぶことにより、人間の本質と生命の尊厳、並びに、人間関係の基礎的なダイナミズムを理解し、多様な文化や基本的人権を尊重して行動できる豊かな人間性や感性、倫理的態度を養うとともに、生涯にわたって自己の人間形成を図る方法と態度を身につける。授業科目として、「哲学」「倫理学」「歴史学」「心理学」「芸術と表現」「教育学」「人間関係論」「身体活動論」「保健体育」「基礎英語」「医療英語」「医療英語コミュニケーション」「スペイン語」「中国語」が含まれている。

『自然の成り立ち』では、人間と相互に影響し合う自然環境や自然的な現象を理解するとともに、

自然科学に関する基礎知識とそれに基づく広い視野からの科学的分析力を身につける。授業科目として、「物理学」「化学」「生物学」「環境学」「災害学」「食糧論」「宇宙学」が含まれている。

『生活・社会の成り立ち』では、人々の生活と環境を社会、政治、経済、文化、ジェンダーなどの面から理解する。また、情報化・グローバル化が人々の生活の様々な営みにまで波及している21世紀社会において重要となる、主体的に情報を収集し、分析・判断・創造・発信する力を身につける。授業科目として、「法学（日本国憲法を含む）」「社会学」「家族社会学」「政治と国際関係論」「経済学」「文化人類学」「ジェンダー論」「情報学」「統計学」「統計学演習」が含まれている。

基礎科学分野の選択授業科目は、看護学を学ぶことによる学生の人間的成熟に合わせて教養を深めることができるよう、複数学年に配置している。

【看護学分野】は、看護学の基本的な知識と技術、並びに、看護学と関連の深い学問の知識を学ぶことをめざしている。人間は成長し続ける存在であるという観点から、成長発達過程を切り口にして『発達過程に共通する看護実践』『発達過程に焦点をあてた看護実践』『看護実習』から構成される。

『発達過程に共通する看護実践』では、どの発達過程にある人への看護にも共通する看護実践の知識と技術、並びに、看護学と関連の深い医学等の学問領域の知識について学ぶ。看護学の知識・技術等の理解や習得がより発展しやすいように、看護学との関連性を踏まえて授業科目を配置している。どの発達過程にある人への看護にも共通する看護実践の知識と技術を学ぶ授業科目として、「看護学概論」「実践基礎看護学概論Ⅰ：看護の基盤」「実践基礎看護学概論Ⅱ：精神看護」「実践基礎看護学概論Ⅲ：公衆衛生看護」「看護技術論Ⅰ：生活環境の調整」「看護技術演習Ⅰ：生活環境の調整」「看護技術論Ⅱ：日常生活援助」「看護技術演習Ⅱ：日常生活援助」「看護技術論Ⅲ：診療・検査時の援助」「看護技術演習Ⅲ：診療・検査時の援助」「看護技術演習Ⅳ」「生涯発達看護論」「精神看護方法」「地域精神看護方法」「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「健康生活支援技術Ⅰ」「健康生活支援技術Ⅱ」「行政看護管理論」「地域健康危機管理論」「看護倫理学」「看護管理学」「チーム医療論」「看護政策学」

「国際看護論」が含まれる。看護学と関連の深い学問領域の知識を学ぶ授業科目として、「基礎薬理学」「臨床薬理学」「臨床検査学」「病態学概論」「病態学各論」「生化学」「栄養学」「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「免疫学」「微生物学」「援助関係論」「社会福祉論」「保健医療福祉システム論」「疫学」が含まれている。

『発達過程に焦点をあてた看護実践』では、生涯にわたる発達過程に焦点を当てた看護実践の知識と技術を、周産期、小児期、成人期、老年期の各期に分けて学ぶ。授業科目として、「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」「周産期実践看護学Ⅰ」「周産期実践看護学Ⅱ」「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」「小児実践看護学Ⅰ」「小児実践看護学Ⅱ」「小児実践看護学Ⅲ」「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」「成人実践看護学Ⅰ」「成人実践看護学Ⅱ」「成人実践看護学Ⅲ」「成人実践看護学Ⅳ」「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」「老年実践看護学Ⅰ」「老年実践看護学Ⅱ」「老年実践看護学Ⅲ」「生涯発達看護学概論Ⅴ（リプロダクティブヘルス）」「助産学概論」「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」「実践地域助産学」「助産管理学」が含まれている。

『看護実習』では、看護を実際に体験する中で、看護の対象と直接対峙し、援助的な人間関係の形成について学び、その人間関係を基盤にして看護を展開する方法や倫理的態度を身につける。また、それまでに学んだ看護実践の知識や技術を検証し、看護実践を創造していく基本的な力を養う。さらに、自己の成長と看護専門職としての自覚を育み、チームケアにおける看護の役割を学ぶ。看護実習は、関連授業科目や演習の進捗と連動させて配置し、看護の対象、健康の理解、生活の理解、看護援助方法を段階的に習得し、基本的な看護実践能力を身につけることをめざしている。「対象の理解実習」から始まり、「日常生活援助実習」「周産期看護実習」「小児期看護実習」「成人期継続療養看護実習」「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」「助産学実習」が組まれている。

【総合分野】は、基礎科学分野、並びに、看護学分野で学んだ知識や技術も併せて総合的に、実践の中で研鑽し創造的に専門性を深め看護実践の

開発を追求するための基礎能力を身につけることをめざしている。1年次から4年次にかけて段階的に、創造性の追求を系統的に学習し、4年次には将来展望も踏まえた学生自身の関心に基づいて、主体的かつ創造的に学べるようにしている。授業科目として、「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」「研究セミナー」「看護総合セミナー」「看護トピックス」「がん看護学」「へき地の生活と看護」「総合実習」が含まれる。

「総合実習」では、将来展望も踏まえた学生自身の関心から学生が看護の専門領域を選択し、高度医療の場並びにへき地を含む地域、その他のフィールドにて、それまでに学習した知識・技術の統合をめざす。

「看護総合セミナー」では、「総合実習」における自己の看護実践を客観的に捉え、必要時、演習や実験・実習を加え、看護実践方法の改善課題を整理し、その解決のための方法を考える。また、社会の動きを理解して、看護学の発展を追求するための姿勢を身につける。

「看護トピックス」では、高度医療の場における看護、へき地看護など本学の理念や近年、重要となっている看護活動に関わる内容が看護の専門領域毎に設定され、学生が自己の関心や将来展望を踏まえて選択できるようにしている。

3. 少人数教育による基礎能力の確実な育成

本学部では、特に1年次から4年次に、少人数の学生を1～2名の教員が担当し、必要時には個別指導を行うことで、学生個々が本学の目指す基礎能力を確実に身につけることができるように教育・支援するセミナー形式の授業を、段階的に配置している。

1年前学期の「看護基礎セミナー」では、図書の検索、内容をまとめ、他の学生の前でプレゼンテーションし、その内容おレポートとしてまとめる方法についての基礎的な学習、2年前学期の「文献講読セミナー」では、基礎資料を研究論文まで広げ、興味のあるテーマについて検索し、内容を検討し、レポートとしてまとめる方法についての学習、3年後学期の「研究セミナー」では、前学期に経験した看護実習を含め、講義・演習・実習の中で興味・関心を持ったテーマについて、分娩を丁寧に検索し読みとって、レポートとしてまとめる学習を行う。これらの段階的な学習後に、

4年次には4月から11月にかけて、「総合実習」と「看護総合セミナー」を配置され、「総合実習」では、将来展望も踏まえた学生自身の関心から学生が看護の専門領域を選択し、高度医療の場、へき地を含む地域等の様々なフィールドで、それまでに学習した知識・技術の統合をめざし、「看護総合セミナー」では「総合実習」での実践を客観的に捉え、看護実践方法の改善課題の解決のための方法を考え、看護学の発展を追求するための姿勢を身につけることをめざしている。

教員一人に少人数の学生という指導体制を取り個々の学生に合わせて丁寧に指導することで、看護の学習を今後も展開していくための基礎能力を確実に身につけることができると考えている。また、学生の興味・関心をテーマにすることで、学生の学習に対する積極的な姿勢を構築することができると考えている。

4. おわりに

看護職には、いかなる状況に対しても、知識、思考、行動というステップを踏み、最善の看護を提供できる人として成長していく基盤となるような教育の提供が重要です。今後とも、保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることのできる看護職の育成のためにカリキュラムの充実を図ると共に、その実施後の評価も併せて行い、よりよいカリキュラムとなるように、看護学部として努力していきたい。

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の任用に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者
(5名以上7名以内)

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山学部長	委員長
成田教務委員長	委員
大塚学生委員長	委員
本田FD委員長	委員
被選考教員の関連領域の教授等	委員
学部長が必要と認めた者（2名以内）	委員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条及び「自治医科大学非常勤講師の任用手続・採用基準規程」の第4項、第5項の規程により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	5月22日	・地域看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
2	6月26日	・基礎看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
3	7月24日	・母性看護学担当教員（講師又は助教）の再公募の結果について ・採用教員の試用期間について
4	9月25日	・非常勤講師（学外・学内）の追加任用（2人）について
5	12月18日	・成人看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・精神看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・看護基礎科学担当教員（准教授又は講師）候補者の選考について ・母性看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
6	1月22日	・母性看護学担当教員（准教授）候補者の選考について

		・母性看護学担当教員（助教）候補者の選考について ・平成25年度看護学部非常勤講師の追加任用（2人）について
7	2月12日	・成人看護学関連科目担当教員（助教）候補者の選考について ・平成25年度看護学部非常勤講師の追加任用（1人）について
8	2月19日	・基礎看護学担当教員（准教授又は講師）候補者の選考について ・基礎看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・地域看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・母性看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
9	3月19日	・基礎看護学担当教員（准教授又は講師）候補者の選考について ・平成25年度看護学部非常勤講師の追加任用（6人）について

教務委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会は、授業及び試験、単位及び課程の修了、学生の入学、退学、休学及び卒業等、学生の修学指導、授業関係の予算、その他学部長が必要と認めた事項を検討するために設置され、10名の委員で構成されている。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
成田 伸 教授	委員長, 夏季へき地研修担当
永井 優子 教授	副委員長, 実習調整担当
塚原 節子 教授	共通物品管理担当
中島登美子 教授	カリキュラム運用担当(主)
中村 美鈴 教授	実習調整担当(主)
野々山未希子 教授	助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当
半澤 節子 教授	カリキュラム運用担当
本田 芳香 教授	既修得単位認定担当(主)
宮林 幸江 教授	授業関係予算担当
渡邊 亮一 教授	時間割担当(主), 既修得単位認定担当

3. 活動内容

本年度は11回の委員会を開催した。委員会に先立って、各担当を中心として十分に事前検討し資料を作成し、委員会の実効性を高めた。

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	議 題
1	2012年 4月12日	年間スケジュール, 既修得単位認定, 平成20年度カリキュラム受講者の養護教諭2種免許取得のための法学及び保健体育の受講等
2	2012年 5月10日	前学期履修状況, 各担当の役割と年間計画, 平成24年度授業関係予算の予算配分等
3	2012年 6月14日	平成25年度共通物品及び教室整備予算, 実習に係る看護学生控室の使用等
4	2012年 7月12日	平成25年度時間割作成, 中教審「授業計画の充実」を受けたシラバスの改善, 夏季へき地研修の実施計画等
5	2012年 9月13日	平成25年度学年暦, 平成25年度附属病院における看護学実習希望病棟に関する調査等
6	2012年 10月11日	日常生活援助実習の看護技術経験録, 新カリキュラムにおける助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考試験等

7	2012年 11月8日	看護学部教育目標・教育方針, 新カリキュラム履修状況調べ, 平成25年度科目責任者等
8	2012年 12月13日	平成25年度シラバスの依頼, 新カリキュラム説明会, 平成25年度附属病院における看護学実習使用病棟希望調査等
9	2013年 1月10日	看護実習開始にあたっての感染症対策, 教育用機器備品の定期点検等
10	2012年 2月14日	卒業認定, 平成25年度3年次前学期実習使用病棟に対する附属病院との調整結果, 平成25年度実習教育説明会等
11	2013年 3月14日	後学期単位取得状況, 助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考試験の選考結果, 旧カリキュラム履修者の科目の読み替え, 平成25年度附属病院における看護学実習使用病棟の調整結果等

学生委員会

委員長 大塚公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
大塚公一郎 教授	委員長 学友会幹事
野々山未希子 教授	副委員長 奨学生選考担当
中村美鈴 教授	委員
宮林幸江 教授	キャリア支援担当
鈴木久美子 准教授	キャリア支援担当
横山由美 准教授	奨学生選考担当

表2 下部組織

	担当者氏名
奨学生選考担当	熊谷 祐子 講師
キャリア支援担当	川上 勝 講師 角川 志穂 講師 千葉 理恵 講師 (平成24年7月より)

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成23年度も、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援を行った。また、従来、学生の進路指導と呼んでいた関連領域における本委員会の活動を、キャリア支援と呼称を変更するとともに、活動の内実を一層充実していくことになった。

本学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセラグループ活用の奨励などを通して行った。学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。新たな学生への経済的支援として、平成21年度より、本学において、保護者の経済的問題による就学困難学生への就学資金（授業料等）の援助が開始され、授業料等の免除・徴収猶予の制度が設けられた。平成24年度も、若干名の学生に「半額免除、半額徴収猶予」の措置が講じられた。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となって行った。24年7月23日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、25年2月15日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者への指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

授業中、課外活動中に発生した傷害、疾病、器物損傷に対する保険として損害賠償責任事故保険「WILL」への学生の加入を促した。

通常の疾病に対する保険として自治医科大学学生健康保険組合（自治医科大学附属病院での加療に対して一人年間10万円まで給付されるものである）への学生の加入を促した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。臨時の委員会が、2011年7月に2回学生の処分に関連して開催された。

	(4)平成25年度新入生懇談会、学生寮 防災訓練日程
--	-------------------------------

表3 平成24年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2012年4月5日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2012年5月11日	(1)看護学生寮防災訓練 (2)奨学金貸与申請 (3)学生寮規程の改訂
3	2012年6月7日	(1)防災訓練報告 (2)看護学部奨学金選考基準 (3)就職に関わる学部推薦の選抜方法
4	2012年7月5日	(1)看護学部校舎防災訓練の日程 (2)看護学部奨学金採用状況 (3)学生自治会、学生寮自治会との懇談会 (4)節電対策 (5)就職説明会
5	2012年9月6日	(1)看護学部防災訓練 (2)学生自治会、学生寮自治会との懇談会 (3)就職説明会
6	2012年10月11日	(1)「将来のキャリアを考える会」の運営 (2)日本学生支援機構奨学金の学生へのオリエンテーション (3)脱法ハーブ及び覚醒剤に関する講演会 (4)就職のための学部推薦者内定内定
7	2012年11月1日	(1)日本学生支援機構奨学金の学生へのオリエンテーション (2)学生自治会及び寮自治会
8	2012年12月6日	(1)学長賞選考 (2)看護学校舎防災訓練 (3)学生自治会、学生寮自治会からの要望
9	2012年1月9日	(1)卒業式送辞担当学生 (2)1、2年生キャリアガイダンス (3)学生自治会からの要望書 (4)4年生進路決定届結果
10	2013年2月7日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について
11	2013年3月7日	(1)キャリア支援WG活動 (2)奨学金担当WG (3)平成25年度キャリア支援関係日程

F D 評価実施委員会

委員長 本田 芳香

1. 所管事項

FD評価実施委員会と研究推進委員会は、其々独立した委員会であるが、今年度より大学教員の教育・研究等の資質開発に関連する委員会活動として同構成員で実施する。

本委員会の所轄事項は、以下の6点である。

- 1) 授業内容及び方法の評価に関する事項
- 2) 教員の資質開発に関する事項
- 3) 教員研修会の企画・実施に関する事項
- 4) 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
- 5) 編集に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に提示する。

下記に示す通り、授業評価WG、FD研究会WG、FDマップWG、研究推進WGの4つのWGの下部組織より構成し担当者を配置した。

※ワーキンググループは、WGと記する。

表1 構成員と下部組織

氏名	役割
本田 芳香 教授	委員長, FD研究会
半澤 節子 教授	副委員長, 研究推進
中島登美子 教授	FDマップ
野々山未希子 教授	授業評価
小原 泉 准教授	FD研究会, 研究推進
塚本 友栄 准教授	FD研究会, 授業評価
浜端 賢次 准教授	FDマップ, 研究推進
飯塚 秀樹 講師	FDマップ, 授業評価

3. 運営方針と活動内容

- 1) 各WGの運営方針は以下の通りである。

但し研究推進WGの運営方針は当該委員会に記載する。

- (1) 授業評価WG：授業評価マニュアルを見直し、次年度の新案を作成する。
- (2) FD研究会WG：授業研究会をFD研究会と改名する。2回のFD研究会及び若手教員を対象とした教育研修会を新企画する。
- (3) FDマップWG：FDマップ活用による新案を作成し全教員を対象に実施する。

- 2) 活動内容

審議事項と活動内容は、表2に示す通りである

表2 2012年度の審議事項と活動内容

回	月日	審議事項と活動内容
1	4月19日	運営方針, 年間スケジュール提示
2	5月19日	各WGの年間スケジュール FDマップ活用による新案
3	6月21日	授業評価アンケート用紙作成
4	7月19日	授業評価アンケート結果
5	9月26日	第1回FD研究会
6	10月11日	平成24年度前期授業評価結果
7	11月15日	平成25年度授業評価新案
8	12月13日	平成25年度授業評価マニュアル
9	1月17日	FDマップ活用報告
10	2月25日	若手教員教育研修会 FDマップ活用による分析結果
11	3月11日	第2回FD研究会 平成24年度報告書作成

4. 活動内容に関する活動評価

本委員会の活動評価は、以下の通りである。

- 1) 授業評価WG：平成24年度授業評価マニュアルを見直し、平成25年度版新マニュアルを作成し、総括評価として学生と教員による評価が十分に実施できるような仕組みを作成したことは評価できる。教育内容の改善に向けた形成評価は、各教員が独自で実施していることに依拠することになった。
- 2) FD研究会WG：本年度FD研究会のテーマは、実習教育に関する事項であり、臨床教員も含め80名近い参加者が得られ活発な討議がなされたことは評価できる。新企画若手教員向けの教育研修会は講師、助教を中心として企画運営され、次年度に繋がる機会となったことも評価できる。
- 3) FDマップWG：大学教員としての資質を向上するため、FDマップを用いて各教員が自己点検と評価を行うことを目的に、各教員がFDマップを参考に自己目標に対する自己点検を行った。教員全員の分析結果から、次年度さらに検討すべき事項が明らかになったことが評価できる。

以上

研究推進委員会

委員長 本田 芳香

1. 所管事項

研究推進委員会とFD評価実施委員会は、其々独立した委員会であるが、今年度より大学教員の教育・研究等の資質開発に関連する委員会活動として同構成員で審議実施をした。

本委員会の所轄事項は、以下の4点である。

- 1) 看護職等との共同研究に関する事項
- 2) 研究活動評価に関する事項
- 3) 研究活動の充実、活性化に関する事項
- 4) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に提示する。

下記に示す通り、研究推進委員会は研究推進WGとして担当者3名を配置した。

※ワーキンググループは、WGと記する。

表1 構成員と下部組織

氏名	役割
本田 芳香 教授	委員長
半澤 節子 教授	副委員長, 研究推進
小原 泉 准教授	研究推進, FD研究会
浜端 賢次 准教授	研究推進, FDマップ
中島登美子 教授	FDマップ
野々山未希子 教授	授業評価
塚本 友栄 准教授	FD研究会, 授業評価
飯塚 秀樹 講師	FDマップ, 授業評価

3. 運営方針と活動内容

1) 研究推進WGの運営方針は以下の通りである。

看護学部教員の研究活動の充実と附属病院看護部との実践研究推進を目標とする。

- (1) 科研費の獲得に向けた個人指導を推進する。
- (2) 研究活動の実質を促進する。
- (3) 実習病院との共同研究連携により実践研究をより可視化する。
- (4) 自治医大附属病院看護部研究ニーズを明らかにし、ニーズに対応した研究指導を行う

2) 活動内容

審議事項と活動内容は、表2に示す通りである。

表2 2012年度の審議事項と活動内容

回	月日	審議事項と活動内容
1	4月19日	運営方針, 年間スケジュール提示
2	5月19日	WGの年間スケジュール 共同研究費申請
3	6月21日	共同研究費執筆要領新案
4	7月19日	科研費個人指導希望者募集
5	9月2日	平成24年度第1回看護部研究発表会 科研費個人指導指
6	10月11日	看護部への研究支援方法検討
7	11月15日	看護部への研究支援案作成
8	12月13日	看護部への研究支援フォーマット作成
9	1月17日	平成24年度第2回看護部研究発表会
10	2月14日	平成25年度共同研究費執筆要領作成
11	3月11日	平成25年度共同研究費申請

4. 活動内容に関する活動評価

本委員会の活動評価は、以下の通りである。

- 1) 科研費の獲得に向けた個人指導：科研費の獲得に向けた個人指導希望を募った結果、2名が応募した。希望者は少なかったが獲得に向け積極的な姿勢があり、今後次年度に向けさらに検討する必要がある。
- 2) 研究活動の実質を促進する：FDマップによる評価では教育が当然中心におかれていることから、実質の研究を推進するための時間の確保の課題があることが明らかになった。次年度に向けて活動の実質を促進するための方略を検討する。
- 3) 共同研究連携による実践研究の可視化：今年度は申請15件と共同研究が活発に推進されていた。科研費申請に準じた申請書執筆要領を作成し他の研究費申請獲得に向けたマニュアルとして評価できる。
- 4) 附属病院ニーズに対応した研究指導：委員長、副委員長の2名は、附属病院の看護部研究委員会へ出席し附属病院のニーズに対応した看護部への研究支援フォーマットを作成し次年度に向けた取り組む方法を検討したことは評価できる。

以上

広報委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、広報誌、パンフレット等の作成及び発行に関する事項、ホームページの作成及び管理に関する事項、オープンキャンパスの実施に関する事項のほか、本看護学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。なお、各事項の担当組織を表2に示した。ホームページおよび進路説明会・模擬授業・指定校訪問調整は委員長が担当した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
永井 優子 教授	委員長
宮林 幸江 教授	副委員長
小原 泉 准教授	
飯塚 秀樹 講師	シーズ集掲載支援
宇城 令 講師	
川上 勝 講師	

表2 下部組織（○印責任者）

担当事項	担当者氏名
学部案内・DVD作成	○小原委員・川上委員
ビタミンN	○飯塚委員・宇城委員
オープンキャンパス	○宮林副委員長、宇城委員、川上委員

3. 活動内容

本年度は8月を除き毎月第2木曜日に定期的に計11回委員会を開催した。各回の審議事項は表3に示した。なお、今年度から企画広報課の職員がオブザーバーとして委員会に出席することになった。

看護学部パンフレット「Campus Guide2013」とDVDの修正・再編集、看護学部広報紙「ビタミンN第9号」を予定通り作成した。

また、ミニ・オープンキャンパスは5月26日（土）13:00-17:00に本学附属病院で開催した「ふれあい看護体験（栃木県看護協会事業）」とあわせて実施し、78名（前年度比+24名以下同じ）が参加した。オープンキャンパスは、新たな内容として部活動紹介を追加して、第1回を8月6日（月）、第2回を8月17日（金）のいずれも10:00-16:00に開催し、第1回382名、第2回403名、計785名（-43

名）が参加した。なお、薬師際における学生説明会には24名が参加した。

さらに、今年度から新たに3年次看護学実習施設である下野市南河内第2中学校2年次167名の体験学習について広報委員会で担当することになり、本看護学部4年次学生92名の協力を得て2回に分けて交流を行った。6月上旬金曜日14:00-16:00に本看護学部で行った。第1回は委員長が、第2日は成田教務委員長が本看護学部の説明を行い、基礎看護学、精神看護学、地域看護学の助教が学生のサポートに当たった。

進路説明会は、計19会場（+3会場）に参加し、351名（+101名）が来場した。模擬授業は依頼4校すべてに各1名の教員（+2校）を派遣し、別途1校の本看護学部の見学を受け入れた。

ホームページの内容について更新をしたほか、企業による広報関係セミナーに主として委員長が出席し、学生募集に関する傾向と対策について情報を得た。

今年度は、看護学部の広報活動を充実するために、オープンキャンパスのアンケートに加えて、推薦および一般入学試験の受験生とその保護者を対象にして、志望動機、看護学部の情報提供の活用と期待の現状、ビタミンNの感想等について調査を行い、次年度以降に活用できる結果を得た。

表3 2012年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2012年 4月12日	活動内容・計画の立案、役割分担
2	5月10日	ミニ・オープンキャンパス実施計画の検討 各担当の進捗状況の報告・検討
3	6月14日	オープンキャンパス実施計画の検討 平成25年度予算案の検討 各担当の進捗状況の報告・検討
4	7月12日	オープンキャンパス最終調整 各担当の進捗状況の報告・検討
5	9月13日	オープンキャンパス実施評価 ビタミンN第9号評価 学部案内2014の検討 各担当の進捗状況の報告・検討
6	10月11日	平成24年度上半期の活動評価と平成25年度学生募集スケジュール案の検討 平成25年度オープンキャンパス企画案 平成25年度DVD編集方針 推薦入学試験受験生を対象としたアンケート案 学部案内2013企画の進捗状況

7	11月8日	平成25年度オープンキャンパス企画案 ビタミンN第10号編集方針 一般入学試験受験生を対象としたアンケート案 学部案内2013企画の進捗状況
8	12月13日	平成25年度オープンキャンパス企画案 ビタミンN第10号編集方針 一般入学試験受験生を対象としたアンケート案 学部案内2013企画の進捗状況
9	2013年 1月10日	平成25年度オープンキャンパス企画 大学案内2014企画 DVD作成企画 ビタミンN第10号編集方針 受験生・保護者アンケート結果
10	2月14日	ビタミンN第10号編集方針 平成25年度オープンキャンパス企画 学部案内2014企画 DVD作成企画 ビタミンN第10号編集方針 受験生・保護者アンケート結果
11	3月14日	ビタミンN第10号編集方針 平成25年度オープンキャンパス企画 学部案内2014企画 DVD作成企画 入学生を対象としたアンケート調査 ガイダンス・オリエンテーションについて

編集委員会

委員長 中村 美鈴

1. 所管事項

編集委員会は常設委員会であり、所轄事項は自治医科大学看護学部委員会規程集より1. 看護学ジャーナルの編集、刊行に関する事項、2. 年報の編集、刊行に関する事項、3. その他学部長が必要と認めた事項と定められている。

2. 委員会の構成

構成委員は6名で、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
中村 美鈴 教授	委員長
大塚公一郎 教授	副委員長
鈴木久美子 准教授	委員
齋藤 良子 准教授	委員
横山 由美 准教授	委員
平尾 温司 講師	委員

3. 活動内容

平成23年度は、表2に示すような議題で計5回の委員会と、自治医科大学看護学ジャーナル（第9巻）「平成22年度」の発行、自治医科大学看護学ジャーナル（第10巻）ならびに自治医科大学看護学部年報（第10号）・大学院看護学研究科年報の刊行をCD-ROM電子媒体で行った。また、委員会の活動目的は、看護学ジャーナルの論文の質・量ともに向上するための取り組みを行うこと、目標を1.専任査読委員の委嘱を、任期2年で依頼する、2.査読基準、ならびに査読コメント方法を再検討する、3.学内共同研究費助成後の論文投稿、修士論文等の投稿を積極的に呼び掛けるの3点を掲げた。

第1回目の委員会では、編集委員会の所轄事項と年間活動目標と計画について確認した。また、論文の質向上を目指し、査読基準を検討し、より具体的な内容を確立した。他、自治医科大学看護学ジャーナル（第9巻）「平成22年度」の発行、自治医科大学看護学ジャーナル（第10巻）の編集、自治医科大学看護学部年報（第10号）・大学院看護学研究科年報（第6号）「平成23年度」の編集について進捗状況の確認と担当者を検討した。

第2回目の委員会では、専任査読委員を学内者または学外者とし、任期は平成24年10月1日～平

成26年9月30日までと登録することを決定した。原著論文を学術論文に統一し、修正することを決定した。また、各教員が記載していた研究活動評価票は、個人の評価視点により評価のばらつきがあり、これを是正するため、記載された研究概要に基づき、看護学務課が研究活動評価票にその実績をカウントすることを確認した。

第3回目の委員会では、第10巻看護学ジャーナルへの投稿論文数は、12編のエントリーがあり、最終的には11編が期日までに投稿されたことを報告した。随時、査読者を決定し、次々号の掲載に向けて工程を進めていくことを確認した。

第4回目の委員会では、投稿論文の第2回目の査読結果と論文審査について、審議した。また、投稿論文に関する作業を確実に遂行するために、論文投稿者に渡す書類と査読員に渡す書類について、記載された一覧とそのスケジュールを検討し、1月末に最終版を完成させた。

第5回目の委員会では、投稿論文の採否と原稿の種類について検討し、最終的に、資料1の通り、10編の論文の種類が承認された。また、昨年度から自治医科大学ポスターセッションに発表した看護学部教員及び大学院生に対し、看護学ジャーナルへの掲載の可否を確認し承諾を得た発表者の抄録を掲載していることから、今年の第11回ポスターセッション抄録の看護学ジャーナルへの掲載について、原稿を募集することとした。

4. 平成24年度の委員会活動の評価と次年度に向けての課題について

今年度、専任査読員制度を導入し、任期を2年としたが、効果・効率的ではなく、次年度は、従来通り、教授・准教授は例年通り任命する運びとなった。修士論文等の論文投稿を多く認め、原稿の種類も論文が多く、ジャーナルそのものの全体の質向上につながった。

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	議 題
1	2012年4月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割と平成24年度編集委員会の方針、活動目標について ・平成24年度編集委員会年間スケジュールについて ・自治医科大学看護学ジャーナル（第9巻）「平成22年度」の発行について ・自治医科大学看護学ジャーナル（第10巻）の編集について

		<ul style="list-style-type: none"> ・自治医科大学看護学部年報（第10号）・大学院看護学研究科年報（第6号）「平成23年度」の編集について
2	2012年5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・専任査読制度について ・年報に記載する研究概要について
3	2012年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文数について ・投稿論文に対する調査状況について
4	2012年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文の第2回目の査読結果と論文審査について ・投稿論文に関する作業スケジュールについて
5	2013年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文の採否と原稿の種類の設定について ・平成24年度の委員会活動の評価と次年度に向けての課題について

国家試験対策委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在學生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏名	役割
渡邊 亮一 教授	委員長
里光 やよい 准教授	副委員長
齋藤 良子 准教授	委員
鈴木 久美子 准教授	委員
浜端 賢次 准教授	委員
宮城 純子 講師	委員

3. 活動内容

本年度は、表2に示すような議題で計8回の委員会を開催した。

委員会の具体的な活動としては、まず国家試験受験に向けてのガイダンスを2回実施した。また、これ以外に、3年生を対象にガイダンスを1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を、保健師については2回、助産師については2回、看護師については3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導は、学生を6グループに分け、それぞれのグループを1名の本委員会の委員が担当することとし、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する他の教員にも協力を要請し、2012年11月から2013年1月にかけて、国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については、学生サロンに設けられた国試対策コーナーに、受験参考書や問題集を置き、学生がいつでも利用できるようにした。また、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き、学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

2012年度の家試験は、助産師が2013年2月14日（木）に、保健師が2013年2月15日（金）に、看護師が2013年2月17日（日）に実施され、その結果は

表3に示すとおりであった。2012年度の全国平均の合格率は、保健師が96.0%、助産師が98.1%、看護師が88.8%であった。本学部は、いずれの資格の合格率も全国平均を上回り、助産師の合格率は100.0%を達成した。次年度以降も高い合格率を維持できるように、引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2012年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
自治医科大学 看護学部	保健師	105	103	98.1
	助産師	9	9	100.0
	看護師	105	101	96.2
全 国	保健師	16,420	15,764	96.0
	助産師	2,113	2,072	98.1
	看護師	56,530	50,224	88.8

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	審 議 事 項
1	2012年4月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事項について ・年間スケジュールについて ・4年生に対する国家試験対策のガイダンスの報告 ・低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果について ・担当学生の個別面接の実施について ・国家試験対策模擬試験のマニュアルについて
2	2012年5月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書について ・国家試験対策模擬試験マニュアルについて ・国家試験対策模擬試験の日程および担当者の確認 ・担当学生の個別面接の経過または結果の報告
3	2012年7月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回看護師国家試験模擬試験の実施状況ならびに結果について ・国家試験出願説明会および受験説明会の日程について ・担当学生の近況報告
4	2012年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験の施行（官報）について ・国家試験受験説明会の日程について ・国家試験対策模擬試験日程等について ・担当学生の近況について
5	2012年11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の受験状況について ・学長特別講義及び国家試験出願手続説明会等の開催について ・3年生に対する国家試験ガイダンスについて ・国家試験対策ゼミについて ・担当学生の近況について
6	2012年12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の結果（成績）について ・国家試験対策ゼミについて ・担当学生の近況報告
7	2013年1月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の受験状況について ・理事長特別講話及び国家試験受験説明会等の開催について ・次年度に向けた国家試験対策推薦参考図書について ・担当学生の近況報告
8	2013年3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・第99回保健師・第96回助産師・第102回看護師国家試験の結果について ・次期国家試験対策委員会への申し送り事項について ・国家試験対策推薦書籍2013年版について

臨床実習指導研修委員会

委員長 塚原 節子

1. 所管事項

本委員会は、自治医科大学看護学部教育理念に基づいた教育と、臨床の場での看護実践の乖離を防ぎ、教育・学習活動に生かすことを目的としている。その目的達成のため毎年臨床助教を含め、それを目指す教育担当の看護師らに対し以下の3つの目標を挙げ、研修会を実施している。

- 1) 本看護学部の教育理念に基づいた看護学実習の目的及び目標を理解する
- 2) 臨床実習の基本を理解する
- 3) 看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶ

また、本研修会参加者には修了証及び修了バッジを授与している。本年度は、授与するバッジを新しいデザインに変更した。

さらに、今まで7回に及び本委員会主催の臨床実習指導研修会が開催され研修修了生を輩出してきた。今後の委員会(臨床実習指導者研修会)のあり方を検討することを目的にその修了生の動向を調べた。(委員会内部での下部組織として、表2にその担当構成員を示した。)

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

臨床実習指導者研修会（開催は平成24年9月4日火曜日、5日水曜日）運用に関しては、別表で示す。

表1 構成員と役割

氏名	役割
塚原 節子 教授	委員長
村上 礼子 准教授	副委員長
大脇 淳子 准教授	
熊谷 祐子 講師	講義演習担当・マニュアル担当
清水みどり 講師	講義演習担当・マニュアル作成
角川 志穂 講師	研修会資料作成担当研修会参加アンケート集計・分析

表2 下部組織（ワーキングが有る場合）

担当者氏名	活動内容
塚原 節子	全体企画校正
村上 礼子	データ分析, 論文作成
大脇 淳子, 熊谷 祐子, 清水みどり	調査票作成, 集計
角川 志穂	データ集計・分析・論文構成・作成

3. 活動内容

本年度活動内容を表で示す。

表3 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2012年4月6日	・委員の役割分担 ・臨地実習指導研修会開催日時 の決定 ・臨地実習指導研修会のプログラム 検討
2 5	2012年4月26日, 5月8日, 6月12日, 7月9日,	・臨地実習指導研修会のプロ グラム検討(講師の選定等) ・研修会参加アンケートの検討 ・バッジの検討・決定 ・研修終了後の追跡調査につい て検討 ・研修会参加申し込み方法等につ いて ・研修会テキスト作成
6 7	2012年10月1日, 10月30日	・臨地実習指導研修会の評価 ・追跡調査について
8 9	2012年11月13日, 2013年2月12日	・追跡調査分析 ・来年度に向けた研修会開催 マニュアルの検討

・本委員会における研修会の命名を、臨床実習指導研修会から臨地実習指導研修会に改めた。これは看護系大学が発足して以来、学生の実践現場における実習の場は、「臨床の場のみ」に在らずとの意向から、全国的に十数年も前から臨床ではなく臨地といわれていたことによる変更である。

入試実施委員会

委員長 中島 登美子

1. 所管事項

入試実施委員会の所管事項は、①入試実施説明会に関する事、②入試実施日の役割分担・実施手順に関する事の2つである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏名	役割
中島登美子 教授	委員長
渡邊 亮一 教授	副委員長
大塚公一郎 教授	委員
成田 伸 教授	委員
塚本 友栄 准教授	委員
松浦利江子 講師	委員

3. 活動内容

本年度は、表2に示すような議題で計3回の委員会を開催した。

入試実施説明会は、平成24年11月8日（木）に推薦入試試験の説明会を、平成25年1月24日（木）に一般選抜入学試験の説明会を実施した。

入試実施日の役割分担・実施手順に関しては、3種類のマニュアル（「推薦入学試験マニュアル」、「一般選抜入学試験第一次試験（筆記試験）マニュアル」、「一般選抜入学試験第二次試験（面接試験）マニュアル」）の内容の見直しや再検討を行い、マニュアルを完成させた。このマニュアルを用いて、前述した入試実施説明会を行った。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・入試実施委員会の所管事項ならびに委員等の構成について ・平成24年度看護学部入試試験の概要について ・入試実施説明会の日程について ・入試実施マニュアルについて
2	2014年10月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度入学試験の実施について、および平成24年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2015年1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度一般選抜入学試験（一次、二次）実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山 早苗	委員長（研究科長）
中村 美鈴	委員（幹事長）
半澤 節子	委員（専攻分野主任）
宮林 幸江	委員（専攻分野主任）
大塚 公一郎	委員
塚原 節子	委員
永井 優子	委員
成田 伸	委員
本田 芳香	委員
野々山未希子	委員
渡邊 亮一	委員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度看護学研究科運営組織について ・平成24年度看護学研究科入学生の研究指導教員の決定並びに在学生の研究指導教員の変更について ・平成24年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・平成24年度授業科目責任者の変更について ・平成25年度看護学研究科入試日程について ・平成24年度看護学研究科修士（看

		<ul style="list-style-type: none"> 看護学）学位申請日程について ・平成24年度看護学研究科学年歴について ・平成24年度看護学研究科委員会議事日程について
2	5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度看護学研究科履修科目（博士前期課程）の決定について ・平成24年度看護学研究科履修科目（博士後期課程）の決定について ・平成24年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加決定について ・平成25年度看護学研究科入学試験説明会について ・平成25年度看護学研究科科目等履修生の募集日程等について ・看護学研究科博士後期課程「広域実践看護学演習」合同ゼミ及び「広域実践看護学特別研究」合同研究セミナー並びに博士前期課程研究構想発表会について
3	6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度看護学研究科出願資格認定試験並びに入学試験の実施要領について ・大学院ホームページのリニューアル等について ・専門看護師教育課程のフォローアップ研修の実施について ・看護学研究科博士後期課程「看護学研究計画審査会」開催要領について ・大学院生の国際交流に伴う補助について
4	7月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院看護学研究科授業評価について ・大学院看護学研究科授業研究会について ・大学院看護学研究科修士生のフォローアップ研修（仮称）について ・専門看護師教育課程（38単位）の申請スケジュール及び役割分担について
5	9月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度看護学研究科出願資格認定試験合否判定について ・平成25年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験実施について ・平成25年度看護学研究科予算について ・大学院教員任用申請（博士前期課程・科目追加）について ・平成24年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について
6	10月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について

		<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度博士前期課程研究構想発表会並びに博士後期課程「広域実践看護学演習」合同ゼミ及び「広域実践看護学特別研究」合同研究セミナーについて 平成24年度看護学研究科科目等履修生単位修得（前期課程）認定について 平成24年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加決定について 			<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度大学院看護学研究科博士課程（前期・後期）説明書のホームページ掲載案について 平成24年度看護学研究科（博士前期課程）論文審査（口頭試問）の結果について 平成24年度学位論文発表会スケジュールについて 平成25年度科目等履修生の決定について 平成26年度科目等履修生の入学試験日程について 大学院看護学研究科博士課程の広報方針について（web版）
7	11月1日	<ul style="list-style-type: none"> 大学院看護学研究科博士前期課程履修科目の追加について 大学院看護学研究科の教育目的及び教育目標（案）について 	11	2月18日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度看護学研究科論文審査最終試験の判定について 平成24年度ティーチングアシスタントの追加決定について
8	12月17日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について 平成25年度看護学研究科科目責任者（博士後期課程）の決定について 大学院看護学研究科授業研究会の名称変更について 博士前期課程（専門看護師教育課程38単位含）の教育課程について 専門看護師教育課程（38単位）共通科目Bの各授業概要について 専門看護師教育課程（38単位）共通科目A/Bの照合表について 	12	2月21日	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について 平成24年度看護学研究科（博士前期課程）修得単位の認定について 平成24年度看護学研究科（博士前期課程）修了判定について 平成24年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について 平成25年度看護学研究科運営組織について 平成25年度看護学研究科新生・在学生オリエンテーションについて
9	1月10日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度看護学研究科（博士前期課程）論文審査実施要領について 論文審査及び最終報告書の結果用「報告書」の様式について 平成25年度看護学研究科時間割（案）について 平成25年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施について 平成25年度倫理審査委員会日程（案）について 平成25年度看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程（案）について 平成26年度看護学研究科入学試験日程について 平成25年度看護学研究科学年歴（案）について 誓約書について 平成25年度大学院看護学研究科パンフレット構想（案）について 	13	3月7日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度看護学研究科（博士後期課程）修得単位の認定について 平成25年度看護学研究科（博士後期課程）時間割について 平成25年度看護学研究科（博士後期課程）指導教員の決定について 平成25年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について 平成25年度看護学研究科委員会議事日程について
10	2月8日	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度大学院看護学研究科教員の任用について 平成25年度大学院看護学研究科非常勤講師の任用について 平成26年度教育要項の授業科目の決定について 大学院生の学習環境調整の組織化について 			

研究科委員会幹事会

幹事長 中村 美鈴

1. 所管事項

研究科委員会幹事会は、以下の内容を審議することが幹事会運営内規で定められている。

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

構成委員は15名で、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
中村 美鈴 教授	幹事長
大塚 公一郎 教授	副委員長
塚原 節子 教授	委員
永井 優子 教授	委員
中島 登美子 教授	委員
成田 伸 教授	委員
野々山未希子 教授	委員
半澤 節子 教授	委員
本田 芳香 教授	委員
宮林 幸江 教授	委員
渡邊 亮一 教授	委員
小原 泉 准教授	委員
塚本 友栄 准教授	委員
浜端 賢次 准教授	委員
横山 由美 准教授	委員
春山 早苗 研究科長	オブザーバー

3. 活動内容

平成24年度は、表2に示すような議題で計12回の委員会を開催した。主な内容は、38単位専門看護師教育課程の申請に向けて、どのように新規科目を組み立て、どのようなスケジュールで進めていくかを検討し、実際にその計画を進めた。

表2 平成24年度 大学院看護学研究科委員会幹事会 議題

No.	日時	議 題
1	5月10日(木) 13:30～	1. 平成24年度看護学研究科委員会幹事会議事日程(案)について 2. 平成24年度看護学研究科履修科目の決定について 3. 平成24年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加決定について 4. 平成25年度看護学研究科博士課程説明会について 5. 平成25年度看護学研究科科目等履修生の募集日程等(案)について
2	6月7日(木) 13:30～	1. 平成25年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の実施要領(案)について 2. 大学院ホームページのリニューアルについて 3. 専門看護師教育課程のフォローアップ研修の実施について
3	7月5日(木) 13:30～	1. 大学院FD授業評価について 2. 大学院授業研究会について 3. フォローアップ研修会について 4. 専門看護師教育課程(38単位)の申請について 5. 平成25年度看護学研究科博士課程説明会について(報告) 6. その他(報告)
4	9月6日(木) 13:30～	1. 平成25年度大学院看護学研究科(博士前期課程)入学試験実施について 2. 平成25年度大学院看護学研究科予算(案)について 3. 平成25年度大学院看護学研究科科目等履修開講科目について 4. 大学院看護学研究科FD評価について 5. 広報委員会報告(報告) 6. 平成24年度看護学研究科修了生フォローアップ研修会について(報告)・大学院教員任用審査について(教授のみ)
5	10月4日(木) 13:30～	1. 平成24年度大学院看護学研究科博士前期課程科目等履修生単位修得(前期履修)について 2. 平成24年度大学院看護学研究科ティーチングアシスタントの追加申請の承認について 3. その他
6	11月1日(木) 13:30～	1. 大学院看護学研究科博士前期課程履修科目の追加について 2. 平成24年度第1回修了生フォローアップ研修会の振り返りと今後の課題について(報告) 3. その他(報告)

7	12月17日(月) 16:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院看護学研究科授業研究会の名称変更について 2. 平成25年度大学院看護学研究科科目責任者（案）について 3. 博士前期課程（専門看護師教育課程38単位含）の教育課程について 4. 専門看護師教育課程（38単位）共通科目Bの各授業概要について 5. 専門看護師教育課程(38単位)共通科目A/Bの照合表について 6. 専門看護師教育課程（38単位）のスケジュール内容の追加について（報告） 7. 大学院生の国際交流について（報告） 8. 大学院看護学研究科のFD活動について（報告） 9. 広報委員会報告（報告） 10. その他（報告）
8	1月10日(木) 14:45~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度大学院看護学研究科時間割（案）について 2. 平成25年度大学院看護学研究科パンフレット構想（案）について 3. 平成26年度以降の博士前期課程における教育課程について 4. 実習科目の科目等履修について 5. CNS受験資格試験に関するレポート等の指導体制について 6. 大学院生の学習環境調整の組織化について 7. 研究指導室書庫の鍵の管理場所変更について（報告） 8. 修了生フォローアップ研修会の振り返りと今後の方向性について（報告） 9. 平成25年度看護学研究科予算関係について（報告） 10. その他（報告）
9	2月8日(金) 13:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 38単位専門看護師教育課程と課題研究について 2. 共通科目A/Bにおけるシラバス修正について 3. 大学院生の学習環境調整の組織化について 4. 平成24年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加申請について 5. 平成24年度CNS認定試験の合格者について（報告） 6. 大学院の授業評価について（報告） 7. 38単位教育課程における非常勤講師等依頼時の様式について（報告） 8. 広報委員会報告（報告）

		<ol style="list-style-type: none"> 9. その他（報告） ・平成25年度大学院看護学研究科教員任用審査について(教授のみ) ・平成25年度大学院看護学研究科非常勤講師任用審査について(教授のみ)
10	3月7日(木) 13:30~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について 2. 本学医学部非常勤講師の経歴書依頼リストについて 3. 広報委員会報告（報告） 4. その他（報告）

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 渡邊 亮一

1. スタッフの紹介

教授 渡邊 亮一

教授 大塚 公一郎

講師 飯塚 秀樹

講師 平尾 温司（2012年4月1日着任）

取得資格：博士（農学），農学修士，農学士，高等学校理科第一種免許

学歴：宇都宮大学，宇都宮大学大学院（修士課程），東京農工大学大学院（博士課程）

職歴：自治医科大学医学部解剖学講座を経て着任

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学に関する教育概要

(1)情報学（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(2)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が15時間を担当して講義を行った。

(3)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(4)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(5)人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間，高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(6)哲学（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

(7)倫理学（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

(8)文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）

科目分担者である渡部圭一非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が10時間，砂井紫里非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が10時間，科目責任者である大塚が10時間を担当して講義を

行った。

(9)基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(10)医療英語コミュニケーション（1・2年次後学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(11)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が30時間を担当して講義を行った。

(12)人体の構造と機能Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が24時間，加藤一夫非常勤講師（本学医学部准教授）が6時間を担当して講義を行った。また，平尾，加藤一夫非常勤講師および野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が2時間を担当し，解剖実習見学を行った。

(13)免疫学（1年次後学期2単位：必修）

滝 龍雄非常勤講師（北里大学医療保健学部准教授）が18時間を担当し，補助科目責任者である平尾が12時間を担当して講義を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

渡邊，大塚は，それぞれ30時間の演習を担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

渡邊，飯塚は2時間の講義を，飯塚，平尾は10時間の演習を担当した。

(3)対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

渡邊，大塚，飯塚，平尾は，それぞれ45時間の演習を担当した。

(4)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必修）

平尾は，6時間の講義を担当した。

(5)在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

渡邊，大塚，飯塚，平尾は，6時間の演習を担当した。

(6)大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(7)大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。

(8)平尾は，本学医学部の学生を対象にした神経解

剖学実習を8時間担当した。

(9)平尾は、本学医学部の学生を対象にした解剖学実習を38時間担当した。

3. 研究の概要

(1)医療情報技師の育成に関する研究

渡邊は、日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが、そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行っている。

(2)日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は、本看護学部教員野崎章子とともに、日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援の調査・研究を行った。

(3)日系ブラジル人の社会精神医学的研究

大塚は、本学附属病院精神科において、日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたるとともに、彼らを対象とした多文化間精神医学的調査、精神病理学的研究を行った。

(4)腎透析患者の精神障害、腎移植ドナーのメンタルヘルスについての研究

大塚は、本学附属病院腎臓センター外科部門の依頼のもと、同病院精神科医師である菅原一晃とともに生体腎移植のドナー候補者の意思決定を確認するための面接を行うとともに、附属病院精神科外来で透析患者の診療にあたった。以上の診療にもとづきサイコネフロジーの研究を行った。

(5)統合失調症の精神病理学的研究

大塚は、本学医学部精神医学教室加藤 敏教授とともに、統合失調症の妄想についての精神病理学的研究を行った。

(6)通訳訓練法を応用した英語教育に関する研究

飯塚は、通訳訓練法を応用した英語指導法 Consecutive Interpreting Approachに基づいて、正確なプロソディーの獲得、および話すこと、書くことといった発信手段を強化する研究を行っている。

(7)嗅覚器官の比較解剖学的研究

平尾は、杏林大学保健学部講師である瀧上 周、宇都宮大学農学部教授である杉田昭栄らとともに、「ニワトリ外側鼻腺管の形態」について、組織学的手法、免疫組織化学的手法および超微細構造について研究を行っている。

4. その他

(1)渡邊は、平成23年度に引き続いて、財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として、第三者病院機能評価事業に参画した。

(2)渡邊は、日本医療福祉設備学会理事ならびに総務委員会委員長、日本医療情報学会理事・評議員ならびに医療情報技師育成部会会長、日本診療情報管理学会評議員、日本医療・病院管理学会研究委員会委員などを務めた。

(3)渡邊は、第32回医療情報学連合大会（第13回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員会委員、実行委員会委員ならびに医療情報技師育成事業10周年記念フォーラム「医療情報技師育成事業のこれまで」の座長を務めた。

(4)渡邊は、社団法人栃木県看護協会の認定看護管理者セカンドレベル教育「情報テクノロジー」の講師を務め、講義ならびに演習を行った。

(5)渡邊は、非常勤講師として、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を、一般社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。

(6)大塚は、平成21年1月より多文化間精神医学会理事、同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

(7)大塚は、平成21年度より日本社会精神医学会学術委員を務めている。

(8)大塚は、平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。

(9)大塚は、平成19年度より栃木県障害者介護給付費等不服審査会委員を務めている。

(10)大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の「精神医学」の講義を行った。

(11)飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会第29回英語スピーチコンテスト決勝で司会を務めた。

(12)飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会英語専門委員として、全商英語検定試験1級および2級の問題作成に従事した。

(13)飯塚は、茨城県立鉾田農業高等学校、茨城県立明野高等学校、茨城県立古河第三高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、茨城県立古河第一高等学校、茨城県立那珂湊高等学校、茨城県立日立商業高等学校、神奈川県立厚木商業高等学校の8つの高等学校において、「Consecutive Interpreting

Approachに基づく新学習指導要領に向けた高校英語授業の工夫」という主旨・演題で講師を務めた。

(14)飯塚は、文部科学省後援ELEC（一般財団法人英語教育協議会）夏期英語教育研修会において、「新学習指導要領に向けた高校英語授業の工夫」という演題で講師を務めた。

(15)飯塚は、栃木県立小山西高等学校における学校評議員を務めた。

(16)平尾は、本学部のFD研究会において「人体の構造と機能」について発表を行った。

(17)平尾は、栃木県立衛生福祉大学校看護本科において「解剖生理学ⅡおよびⅢ」の講義を行った。

基礎看護学

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香
塚原 節子
准教授 里光やよい
講師 宇城 令
熊谷 祐子
助教 高山 詩穂
滝 恵津

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では、発達段階に合わせたすべての人を意識し、4年間で学ぶべく看護学の基礎を、また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

(1)看護学概論（1年次前学期2単位：必修）担当：塚原節子：人間・健康・環境・看護の4つの概念から今後看護が目指すものを教授。

(2)実践看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

(3)看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位・1単位）担当：基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン、基本的大意に関し講義と演習を進めた。

(4)看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位）担当：基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し、食事、排泄、清潔等の講義と演習を進めた。

(5)看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位）担当：基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し、滅菌操作、採血等の検査、与薬に関連する点滴、筋注、皮下注等の講義演習を行った。

(6)看護技術総合演習（2年次前学期1単位）担当：本田：フィジカルアセスメント、看護過程の展開を教授し、学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

(7)その他：「看護トピックス」は里光、宇城

が、「へき地の生活と看護」は熊谷・高山が「看護基礎セミナー」は准教授以上の教員（塚原・本田・佐藤・里光）および助教（高山・滝）が「文献購読セミナー」は准教授および講師（里光・宇城・熊谷）がそれぞれ担当した。「看護研究セミナー」は准教授（里光・佐藤）、講師（宇城・熊谷）・助教（高山・滝）で担当した。

3. 研究の概要

別様式 参照する。それぞれの教員が1本以上の学会での発表を行った。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

准教授 鈴木久美子

准教授 塚本 友栄

講師 千葉 理恵（2012年7月1日就任）

資格：看護師，保健師，第一種衛生管理者，
養護教諭二種

学歴：保健学博士（東京大学大学院医学系研
究科健康科学・看護学専攻博士課程修了）

職歴：看護師として，横浜市立大学附属病院
（精神科・神経内科）に2年間，秦野病院（精
神科）2年1ヶ月，非常勤看護師として秦野厚生
病院（精神科）に5年間勤務

助教 島田 裕子

助教 関山 友子

助教 青木さざり

資格：看護師，保健師

学歴：修士（看護学）（自治医科大学大学院
看護学研究科看護学専攻修士課程）

職歴：保健師として，東京都青ヶ島村に7年2
カ月間勤務

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期3単位：必修），地域看護管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。また，在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）では，本学科目教員は訪問看護実習，学校看護実習，産業看護実習を担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：塚本が科目責任者，春山，鈴木，千葉，島田とともに担当。②「看護基礎セミナー」

（1年次前学期：必修）：鈴木，島田，関山，青木が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期：選択）：鈴木が科目責任者，青木も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：塚本が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期：必修）：塚本が科目責任者，塚本，春山は講義担当，演習は本学科目教員全員で16名の学生を担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期：必修）：春山が科目責任者，講義を8時間担当，塚本が2時間担当。⑦「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で13名を担当。実習場所は下野市3名，群馬県吾妻郡中之条町六合地域4名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション2名。⑧「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生13名を担当。春山が1名，鈴木が2名，塚本が2名，千葉が2名，島田が2名，関山が2名，青木が2名の学生を指導。学生は，糖尿病予防のための行動変容を促す看護援助，発達経過観察児の母親の思い，中山間地域における高齢者の閉じこもり予防やセルフケア力向上のための支援，中山間地域における高齢者の交流と健康との関連，独居高齢者の見守り体制づくりにおける保健師の活動方法，老々介護における在宅介護継続のための看護援助等に関する看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，鈴木が責任教員となり，前学期に「地域における健康危機管理活動の展開方法」をテーマに実施。本学科目教員全員で学生16名を担当。⑪その他：鈴木，青木は夏季へき地研修を担当。「へき地の生活と看護」の履修者を含む35名の研修を9カ所の施設において企画・実施した。

3. 研究の概要

1) 本学看護学部共同研究費「新任期行政保健師が経験した保健師活動と新人保健師の到達目標の主観的達成度」：関山が研究代表者となり，本学科目教員全員で栃木県内保健師らとともに実施。

2) 本学看護学部共同研究費「高度医療と地域医療をつなぐ看護職の役割拡大に関するニーズ調査」：春山が研究代表者となり，他学科目教員や附属病院看護部メンバーとともに実施。

3) 平成24年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「地域特性の相違性が大きい地域が内在する市町の保健師活動における地区管理方法」：研

究代表者は春山，分担研究者は鈴木，塚本，島田，関山，青木。

4) 平成24年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「保健活動の質の評価指標開発」（研究代表者：東北大学大学院 教授 平野かよ子）：春山は，研究分担者として「感染症対策の保健活動の評価指標の開発」に取り組んだ。

5) 平成24年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「鳥しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学 名誉教授 野口美和子）：春山が研究分担者。

6) 平成24年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「地域健康安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究」（研究代表者：（財）日本公衆衛生協会 会長 多田羅浩三）の分担研究「東日本大震災被災地の地域保健基盤の組織体制のあり方に関する研究」（分担研究代表者：千葉大学大学院看護学研究科 教授 宮崎美砂子）：春山が研究協力者。

7) 平成24年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授 梶井英治）：春山が研究協力者。

4. その他

1) 栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2012.6.22, 12.5, 参加者6名）：春山は講師，鈴木は助言者。

2) 栃木県看護協会平成24年度実習指導者講習会（受講者26名）：塚本が「臨地実習指導方法」（7時間，2012.8.30, 9.12, 9.13）を担当。

3) 春山は，日本ルーラルナーシング学会理事，副事務局長，編集委員，千葉・関山は事務局員，編集委員，鈴木・塚本・島田・青木は事務局員。

4) 春山：①栃木県看護協会「リフレクションー看護のやりがいを支えるー」研修会の講師（2012.9.11, 受講者213名，宇都宮市）。②栃木県北健康福祉センター管内保健師人材育成研修会の講師：講話「人材育成の大切さ～保健師活動から～」及びグループワーク（2012.11.5, 参加者31名，大田原市）③岩手県看護協会 岩手県委託「

看護管理者研修会」リフレクションー看護のやりがいを支えるーの講師（2012.11.21, 受講者102名，盛岡市）。④第32回日本看護科学学会学術集会シンポジウムⅡ地域再生への挑戦：シンポジストとして「地域社会における再生のための取り組み」（2012.12.1, 東京）。⑤栃木県安足健康福祉センター平成24年度地域保健福祉関係職員研修会の講師：講話「地域診断から始まる保健活動」及びグループワーク（2012.12.10, 参加者35名，足利市）⑥日本家族計画協会，予防医学事業中央会主催の第14回自己効力感（セルフエフィカシー）を高め主体的な行動変容を支える健康教育実践セミナーの講師として「組織づくり・地域づくりとソーシャルキャピタル」を1時間講義（2013.1.20, 受講者54名，東京）。⑦平成24年度全国市町村保健活動専門研修グループ研究「住民に寄り添う保健師活動」の助言者（2013.2.7, 参加者38名，東京）。⑧下野市保健師等連絡会「人材育成ワーキンググループ」の活動支援。⑨栃木県保健師現職教育のあり方検討会委員（2012.8.27～）⑩沖縄県立看護大学 文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」鳥しょにおける『包括的専門看護師』の養成の教育プログラム外部評価委員（2013.3.1～）⑪厚生労働省医道審議会専門委員（保健師助産師看護師分科会員）（2013.2.28まで）。

⑫厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）（2013.3.8～）。⑬日本地域看護学会理事及び教育委員会委員長（2012.8.1～），日本地域看護学会誌査読委員（2012.9.1～）⑭日本公衆衛生学会評議員及び日本公衆衛生雑誌査読委員。⑮日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。⑯千葉看護学会会誌査読者。⑰日本公衆衛生看護学会評議員及び学術実践開発委員（2012.9.2～）。

5) 鈴木：①愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科地域看護学領域学習会「ルーラルナーシング教育研究の取り組み」の講師（2013.2.28, 参加者8名）。②下野市介護認定審査会委員。③日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。④公益社団法人地域医療振興協会さいたま看護専門学校の非常勤講師として「家族支援論」の講義を15時間担当。

6) 塚本：第22回日本看護教育学会学術集会シンポジウム「看護職者としての基盤づくりとその発展を支える教育」：シンポジストとして「新人看護師の看護職者としての発達に対する支援ー就

業を継続できた新人看護師の経験から考えるー」
（2012.8.26, 千葉）。

7) 千葉：①Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing査読委員。②Asian Nursing Research査読委員。③International Journal of Mental Health Nursing査読委員。④Psychiatry Research査読委員。⑤Open Journal of Nursing編集委員。⑥Modern Public Health編集委員。⑦Clinical Nursing Studies編集委員。

8) 島田：栃木県看護協会教育委員

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

講師 宮城 純子（2011年4月1日就任，
2012年3月31日退職）

取得資格：看護師

学歴：看護学（修士）（東京女子医科大学看護学研究科修士課程修了），筑波大学大学院人間科学総合研究科ヒューマンケア科学専攻博士課程中退（社会精神保健学研究室）

職歴：東京都立松沢病院看護師を経て，北里大学看護学部精神看護学講師，埼玉県立大学看護学部精神看護学講師を経て着任

助教 板橋 直人（2012年3月31日退職）

助教 小池 純子

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図れるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目はすべて旧カリキュラムで，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次後学期1単位；必修）は永井15時間，「精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，半澤10時間，永井12時間，宮城6時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤2時間，宮城2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，新たに野木にある「NPO法人みらい」（地域活動支援センターⅠ型・就労継続支援B型）と佐野にある佐野厚生総合病院精神科デイケアを実習施設として追加し，精神看護学教員全員で90時間を担

当した。「研究セミナー」（3年次後学期1単位；必修）では，精神看護学教員全員で8時間担当した。「総合実習」（4年次前学期2単位；必修）では，とちぎ子ども医療センター子どものこころの診療科病棟を実習施設として追加し，精神看護学教員全員で90時間を担当し，「看護総合セミナー」（4年次後学期4単位；必修）では，精神看護学全教員が学生13名に対して120時間を担当した。さらに，半澤は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の2時間を担当した。

2) 精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，半澤は「援助関係論」（2単位）を15時間担当し，「生涯発達看護論」（2単位）では，永井が18時間担当した。また，永井，半澤，板橋，小池は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。宮城は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。さらに，宮城，板橋は「日常生活援助実習」（2年次後学期2単位；必修）を90時間担当した。

3) 看護学研究科博士前期課程の教育概要

共通科目（選択）として，「実践看護研究論」（前学期2単位）として半澤は8時間，永井は10時間，「コンサルテーション論」（前学期2単位）では永井18時間，広瀬寛子非常勤講師（戸田総合病院，看護相談室長）12時間を担当した。精神看護学科目群の必修科目として，「精神看護学講義Ⅲ」（2単位）を永井と半澤で15時間，「精神看護学演習Ⅲ」（2単位）を永井10時間，半澤8時間，大竹眞裕美非常勤講師（福島県立医科大学准教授）8時間，永井・半澤で演習34時間を担当した。さらに半澤は「精神看護学特別演習」（2単位；選択）60時間を担当した。

3. 研究の概要

精神看護学では，継続的に学科目の教員全員が協力して，学内の看護系教員共同研究費による研究に取り組んだ。「精神科における長期入院患者の退院を促進する看護に関する研究」は，関東甲信越地域の精神科医療機関の看護職者を対象に質問紙調査を継続しており，学内外の研究会，学会，学術雑誌への論文掲載など，一定の成果を得てきた。平成24年度はこれらの研究成果を踏まえて，板橋を中心として学内研究費を取得し，栃木県内の精神科医療施設の看護職者を対象に介入研究を

展開し、看護方式変更後1年5ヵ月後の地域で生活する統合失調症患者に対する精神科看護職者の認識の変化について自治医科大学シンポジウムでの発表を行い、自治医科大学シンポジウム・ベストポスター賞（JMU Best Poster Award）を受賞した。

半澤節子は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（B））による研究課題「統合失調症患者の家族の認知行動様式に関する日韓比較共同研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、田中英樹（早稲田大学）、ベイヨンジュン（長崎ウエスレヤン大学）、趙香花（国立精神・神経医療研究センター）、田中悟郎（長崎大学）、連携研究者は、中根允文（長崎大学）、太田保之（西九州大学）であった。その他各教員が科学研究費補助金などを取得して研究を継続し、国内外の学会での発表、学内外の学術雑誌への論文掲載など一定の成果を得ている。また、永井を中心に発足して7年目を迎える北関東精神保健看護研究会は、年2回の研究会を継続しており、栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換、現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

4. その他

永井は、栃木県看護協会、栃木県、栃木県精神衛生協会等が主催する各種研修会の講師として、看護職の継続教育に協力した。また、日本精神保健看護学会評議員（学術連携委員会）・査読委員、日本生活指導学会監事、日本ルーラルナーシング学会評議員（渉外担当）、日本看護科学学会（社会貢献委員会）、千葉看護学会、文化看護学会の評議員、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会の査読委員を務めている。さらに、介護福祉士国家試験委員を務めた。

半澤は、日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当）、同学会誌編集委員、査読委員、日本社会精神医学会理事、同学会編集委員、査読委員、日本精神保健・予防学会の評議員を務めた。

板橋は、栃木県看護協会の看護教員養成課程の演習科目、小池は実習施設である精神科病院における医療安全に関する講義を行って現任教育に協力した。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子

准教授 齋藤 良子（2013年3月31日退任）

講師 角川 志穂

助教 望月 明見（2012年4月1日着任，2013年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師，保健師

学歴：北里大学看護学部卒業。

職歴：北里大学病院産科病棟にて助産師，宇都宮市保健センターにて非常勤保健師，自治医科大学看護短期大学地域看護学助手として勤務，夫の赴任に伴いタイおよびアメリカ滞在，帰国後栃木男女共同参画センター保護課保健業務嘱託員として勤務。

助教 谷田部仁子（2012年4月1日着任，2013年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師。

学歴：東海大学医療技術短期大学第二看護学科卒業，自治医科大学看護短期大学助産専攻科修了，浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）修了，修士（看護学）。

職歴：自治医科大学附属病院NICUにて看護師として勤務後，東海大学医学部付属病院にて副主任・助産師として勤務，青森県立保健大学健康科学部看護学科にて助産・母性看護学助教として勤務。

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥婦）（1年次後学期1単位：必修）

成田が担当し，角川が分担した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)生涯発達看護学概論Ⅱ（胎児・新生児期）（2年前学期1単位：必修）

小児看護学中島教授が科目責任であったが，成田が分担し，「妊娠期における胎児－胎盤系の関係性とその役割」について講義を行った。

(3)生涯発達看護学概論Ⅶ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

(4)周産期実践看護学Ⅰ（妊産褥婦）（3年次前学期1単位：必修）

成田が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。周産期看護実習につながる妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教等も加わり，丁寧な指導を行った。

(5)周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）（2年次前学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員，小児看護学中島と横山が分担した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため教育支援者の協力も得て，演習を展開した。

(6)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，母性看護学教員が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

2) 助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。

(2)基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として総括した。助産の基礎となる形態機能，妊娠・分娩の生理について教授した。

(3)基礎助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し，野々山が科目責任者として総括し，齋藤，谷田部が分担した。

(4)基礎助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し，野々山が科目責任者として総括し，齋藤，谷田部が分担した。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し，野々山が科目責任者として総括し，齋藤，谷田部，望月が分担した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し，野々

山が科目責任者として総括し、齋藤、谷田部、望月が分担した。

(7)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、野々山が科目責任者として総括した。

(8)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、野々山が科目責任者として総括した。

(9)妊娠期助産学実習（4年次前学期1単位：選択）

助産学生9名が受講した。野々山が科目責任者として総括し、齋藤、谷田部が分担した。自治医科大学附属病院で、妊娠期の対象者を受持ち、ケアを展開した。

(10)分娩・育児期助産学実習（4年次後学期④単位：選択）

助産学生8名が受講した。野々山が科目責任者として総括し、成田、齋藤、角川、望月、谷田部が分担した。自治医科大学附属病院で3名、済生会宇都宮病院で3名、木村クリニックで2名が実習し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山、齋藤、谷田部が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

角川が分担者としてグループを担当し、文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

成田、野々山、齋藤、角川、谷田部、望月が分担者として担当し、母性看護学領域に配分された学生を小グループとして受け持ち、テーマに関連した文献の収集、プレゼンテーション、レポート作成を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

野々山、成田、齋藤、角川、望月、谷田部で母性看護学領域に配置された学生16名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

成田、齋藤、角川、望月、谷田部で母性看護学領域に配置された学生を担当した。ALSO（周産期上級生命救助プログラム；Advanced Life Support in Obstetrics）デモンストレーション

コース、日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(6)ジェンダー論（1, 4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当した。

3. 研究の概要

1) 成田は、「避妊・性感染症予防カウンセラーの育成とカウンセリング介入の評価研究」のテーマで文部科学省科学研究補助金（基盤研究(B)）について、野々山、段ノ上を研究分担者とし、鈴木（埼玉県立大学）、工藤里香（兵庫医療大学）を含む学外者を連携研究者として研究を実施した。

2) 角川は、自治医科大学看護学部共同研究費補助金「家族学級プログラムの開発に向けた基礎的研究－助産師に対する教育効果の検討－」について、まぎぞへいぶん佐藤助産院 佐藤美沙子を分担研究者として研究を実施した。

3) 谷田部は、自治医科大学看護学部共同研究費補助金「第3次周産期医療センター内における新生児蘇生法実践の課題分析と臨床側と教育側の共同の推進の方略の検討と実践」について、成田、野々山、望月を研究分担者とし、附属病院臨床助教、博士前期課程院生を研究協力者として、研究を実施した。

4. その他

1) 成田は、聖マリア大学大学院看護学研究科「ウイメンズヘルス看護学特論」において、非常勤講師として「日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウイメンズ・ヘルスの現状と課題」「薬物療法を含む女性総合医療の動向と看護の課題」について教授した。

2) 成田は第14回日本母性看護学会学術集会においてシンポジウム「臨床看護の成果を可視化する－母性看護専門看護師の活動を通して考える－」の座長を務めた。

3) 成田は、栃木県看護協会が主催した助産師就業支援研修のカリキュラムを作成すると共に、講師を務めた。

4) 齋藤は、神戸大学医学部保健学科「セクシャリティ・ジェンダー看護論」において、非常勤講師として「ライフサイクルとジェンダー・セクシャリティ、性成熟期のジェンダー・セクシャリティ、セクシャリティにおける看護者としての援助的役割」について教授した。

5) 谷田部は、青森県立保健大学健康科学部看護学科「助産診断・技術学Ⅰ」において、非常勤講師として「妊産婦体操の歴史と理論」「妊婦・産褥体操、ベビーマッサージ」について教授した。

6) 野々山は、上尾看護専門学校「成人看護援助論Ⅱ」において、非常勤講師として「生体防御－性感染症とその予防－」「HIV感染症/AIDS」について教授した。

小児看護学

教授 中島 登美子

1. スタッフの紹介

教授 中島登美子（2013年2月28日退職）

准教授 大脇 淳子

准教授 横山 由美

講師 小林 京子（2012年4月1日就任）

資格：看護師，保健師，養護教諭2種

学歴：博士（保健学）（東京大学大学院）

職歴：財団法人聖路加国際病院，国立大学法人神戸大学医学部保健学科（助手・助教）

2. 教育の概要

小児看護学では，子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し基礎的小児看護実践能力を育成することを目標に，下記の科目を担当した。

1) 小児看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し，小児看護の役割を学習する。中島が22時間，大脇が4時間，小林が2時間の講義を担当した。

(2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対するの援助を学習する。中島が12時間，臨床教授の朝野が2時間の講義を担当した。

(3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）子どもに対する特徴的な生活の援助方法を学習する。また，日常的な健康問題や日常起こりうる生命の危機状態にある子どもや家族への援助を学習する。大脇が6時間，横山が10時間，小林4時間，演習8時間は大脇・横山を中心に小児看護学全教員と臨床助教で指導を行った。

(4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）健康課題をもち，さまざまな状況にある子どもの看護を学習する。大脇が8時間，教育支援者2時間，演習16時間は大脇・横山を中心に小児看護学全教員で指導を行った。

(5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族の生活を理解し，看護の展開を学ぶ。横山は科目責任者として全体を総括し，大脇・横山・小林が5クール，臨時教

員2名が各2クールの実習を担当した。

2) 小児看護学以外の担当教育概要

(1)周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児）（2年次前学期1単位：必修）中島が2時間，横山が4時間，臨床助教が2時間の講義・演習を担当した。

(2)がん看護学（4年次前学期1単位：選択）

中島と臨床助教および教育支援者が2時間の講義を担当した。

(3)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

中島は高山助教（基礎看護学），大脇は本田教授（基礎看護学）と共にセミナーを担当した。

(4)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

小林はグループ学習を中心に指導を行った。

(5)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

中島は全体の総括を行い，大脇・横山・小林が10名の学生の指導を12時間担当した。

(6)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中島が全体を総括し，小児看護学全教員が学生10名を指導した。

(7)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中島が全体を総括し，小児看護学全教員が学生10名を指導した。

(8)看護トピックス（3年次後学期1単位：必修）

横山を中心に企画運営し，学生を指導した。

3. 研究の概要

1) 中島は，文部科学省科学研究補助金（基盤C）（研究代表者：中島登美子）による研究課題「低出生体重児の家族支援プログラムの開発と評価」において，NICUの環境調査と家庭への移行期のケアの継続についての調査を推進した。

2) 小林は，文部科学省科学研究補助金（研究活動スタート支援）による研究課題「小児白血病児の体力の低下予防プログラムと家族の生活マネジメントガイドラインの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

小林は，勇美財団在宅医療助成（一般公募）による研究課題「特別支援学校（高等学校）を卒業する在宅障害児の移行支援－医療及び地域社会生活の移行に関する家族の意向の実態と関連要因，意思決定のプロセス－」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

4. その他

1) 中島は、「日本小児看護学会誌」編集委員会の査読委員を務めた。

2) 中島は、Japan Journal of Nursing ScienceのEditorial BoardのRefereeを務めた。

3) 大脇は、「自治医科大学看護学ジャーナル」編集委員会の査読委員を務めた。

4) 大脇、横山、小林は、自治医科大学附属病院NICUで、退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」という親子教室の会誌（すくすくだより）の原稿執筆を行った。

5) 横山は、2012年8月30日～9月8日に実習指導者講習会（栃木県看護協会主催）で講師を務めた。

6) 小林は、「Health and Quality of Life Outcomes」の査読委員を務めた。

7) 小林は、「Child and Adolescent Mental Health」の査読委員を務めた。

8) 小林は、日本家族看護学会第19回学術集会の学会発表抄録の査読委員を務めた。

9) 小林は、日本家族看護学会第19回学術集会においてシンポジウム「家族研究の方法論：小児がん病児の家族員のデータの統合から家族を考える」のシンポジストを務めた。

10) 小林は、第59回日本小児保健協会学術集会においてシンポジウム「小児がん患者と家族および、子育て世代のがん患者とその家族への支援：小児がん患児の家族への支援（きょうだいを中心に考える）」のシンポジストを務めた。

11) 小林は、聖学院大学人間福祉学部児童学科の学部学生に「こどもの保健A」の講義を行った（15コマ）。

成人看護学

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴
 准教授 小原 泉
 准教授 村上 礼子
 講師 松浦利江子（2013年3月31日退職）
 助教 北村 露輝（2013年3月31日退職）
 助教 段ノ上秀雄
 助教 荒木 智絵（2013年3月31日異動）

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は、健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1) 成人看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次前学期2単位：必修）

中村が8時間、小原が8時間、村上が8時間、松浦が4時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が10時間、小原が6時間、松浦が6時間、段ノ上が6時間担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は、中村が8時間、中村および荒木で2時間、担当した。演習は、看護過程演習10時間、手術療法を受ける成人および生命の危機状況にある成人の看護の演習8時間、呼吸機能障害・循環機能障害をもつ成人の看護の演習4時間を成人看護学全教員で担当した。

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

内分環境調節機能障害をもつ成人の看護の講義は、小原が4時間、松浦が2時間、演習2時間は松浦を中心に成人看護学全教員で指導した。脳・神経機能障害をもつ成人の看護の講義6時間は、北村が担当した。

(5)成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

村上が8時間、段ノ上が6時間講義を担当した。演習は、感覚機能障害をもつ成人の演習2時間、運動機能障害をもつ成人の演習2時間、看護過程演習10時間を成人看護学全教員で担当した。

(6)成人期看護臨床実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は実習全体の統括を行い、小原、村上および段ノ上は各2クール、松浦、北村および荒木は各3クール実習指導を行った。

(7)成人期看護フィールド実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は科目責任者として全体を統括し、小原と村上および段ノ上が各3クール、松浦、北村および荒木が各2クールの実習を担当した。

2) 成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

村上は関山助教（地域看護学）、段ノ上は永井教授（精神看護学）、北村は渡邊教授（看護基礎科学）、荒木は半澤教授（精神看護学）と共にセミナーを行った。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村が科目責任者として15回の授業を統括した。中村は4時間の講義とグループ学習、小原と松浦はグループ学習を中心に指導を行った。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

中村は、全体の学習内容と進度の統括を行い、成人看護学全教員が計20名の学生を指導した。

(4)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が計18名の学生を指導した。

(5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が学生18名を指導した。

(6)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中村が全体を統括、村上を中心に企画運営、その他成人看護学教員全員が学生を指導した。

(7)チーム医療論（4年次前学期1単位：必修）

小原が科目責任者で、8時間の講義を担当した。

(8)がん看護学（4年次前学期1単位：選択）

小原が10時間の講義を担当した。

(9)看護管理学（4年次前学期1単位：必修）

小原が2時間の講義を担当した。

3. 研究の概要

1) 中村は、文部科学省科学術研究費補助金研究費研究成果促進費による研究課題「Evaluation of Dysfunction After Upper Gastrointestinal Surgery: Development of the DAUGS Scoring System」(研究代表者: 中村美鈴)について、研究成果を洋書として刊行した。

- 2) 中村は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B) (研究代表者: 中村美鈴) による研究課題「術後機能障害評価尺度 (DAUGS20) の欧米版の開発と有用性の検証」において, 上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度 (短縮版) の欧米版の開発に向けて, 小原泉, 段ノ上秀雄, Alan Lefor, Vanderbilt Cancer センターの共同研究者と共に-米国フィールドとの調整を行った。
- 3) 中村は文部科学省学術研究助成助成金 (挑戦的萌芽研究) における研究課題「日本における胃がん患者の術後機能障害の基準値確立への挑戦」(研究代表者: 中村美鈴) において, 村上礼子, 松浦利江子, 北村露輝, 段ノ上秀雄, 荒木智絵の共同研究者と共に, 質問紙調査を継続し, 研究成果の発表に向けて, データ解析を行った。
- 4) 中村は文部科学省学術研究助成助成金 (基盤C研究) における研究課題「直腸がん肛門括約筋温存術後の排便障害軽減へ向けた看護支援の挑戦的取り組み」(研究代表者: 佐藤正美) (筑波大学) において, 研究分担者として研究を遂行した。
- 5) 小原は, 文部科学省学術研究助成助成金 (基盤C研究) における研究課題「臨床研究コーディネーターによる被験者ケアの構造に関する研究」(研究代表者: 小原泉) において, 共同研究者である本学部教員本田, 国立病院機構大阪医療センター是恒之宏とともに面接調査およびデータの分析を行った。
- 6) 小原は看護学部看護系教員共同研究費 (平成24年度研究助成) で「婦人科がん臨床試験に参加する患者の意思決定支援に関する研究」に取り組み, 看護師を対象とした調査および事例検討会を行った。
- 7) 村上は, 文部科学省科学研究補助金 (基盤C) による研究課題, 「生活行動の拡大支援における清拭技術の活用に関する基礎研究」(研究代表者: 松田たみ子 (茨城県立医療大学)) に, 研究分担者として参加し, 同研究を実施した。
- 8) 村上は看護学部看護系教員共同研究費 (平成24年度学内研究助成) で「自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り-他職種から見い出される課題-」を

テーマとしてインタビュー調査を実施し, 成人看護学教員全員の共同研究者と共に, データを分析した。

- 9) 松浦は, 第11回自治医科大学シンポジウムで「自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り」をテーマに, 村上を中心に成人看護学教員全員でデータ分析し, ポスターセッションで発表を行った。

4. その他

- 1) 中村は, 2012年8月に「実践に活用できる看護過程」(栃木県看護協会主催) というテーマで臨床看護師80名を対象に12時間講義・演習を担当した。北村と荒木は, 演習の指導補助を担当した。
- 2) 中村は, 2012年11月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会 (栃木県看護協会主催) において, 「人的資源活用論: 継続教育」の講義・演習を芳賀日赤病院の久保・塩野谷とともに12時間担当した。
- 3) 中村は, 2012年10月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会 (栃木県看護協会主催) において「看護管理研究における論文作成支援」というテーマで講義 (2時間) を担当した。
- 4) 中村は, 2012年11月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会 (栃木県看護協会主催) において「根拠に基づいた看護実践」というテーマで講義 (3時間) を担当した。
- 5) 中村は, 第43回日本看護協会成人看護I (急性期) 学会で, 論文支援講座「論文の作成ポイントと倫理的配慮」について, 講演した。
- 6) 中村は, 2012年度日本看護協会成人看護I (急性期) 学会委員と論文編集員長を担当した。
- 7) 中村は, 2006年6月より日本ルーラルナースィング学会の評議員, 2010年より, 同理事を務めている。
- 8) 中村は, 2009年度から日本看護教育学会学会誌の専任査読委員を務めた。
- 9) 中村は, 2008年度より日本クリティカケア学会学会誌編集委員会の編集委員を務めた。
- 10) 中村は, 2006年9月より日本救急看護学会の評議員を務め, 評議員選出委員会, 会則委員会の委員, 専任査読委員を務めている。

- 11) 中村は、2006年4月より日本保健医療社会学会の評議員、機関紙編集委員を務めている。
- 12) 中村は、2011年9月より日本ルーラルナーシング学会事務局事務局長を務めている。また、小原、村上、松浦、北村、段ノ上、荒木は、2011年9月より日本ルーラルナーシング学会事務局の中で、事務局長補佐、庶務、広報担当の役割を遂行した。
- 13) 中村は、2011年より7月より、日本看護科学会誌 Japan Journal of Nursing Scienceの編集委員を担当した。
- 14) 中村は、2012年9月に宇都宮短期大学で「機能障害論Ⅱ」を非常勤講師として2コマ担当した。
- 15) 中村は、第14回日本救急看護学会学術集会「救急看護におけるDecision Making」において、学会長を務め、会長講演「救急における患者・家族の意思決定に対する新たな提言」を行った。
- 16) 中村は、第14回日本救急看護学会学術集会「救急看護におけるDecision Making」において、企画委員長を務めた。
- 17) 小原は、2012年7月に聖路加看護大学がん化学療法看護認定看護師教育課程で「臨床試験と治験コーディネーター」について講義した（4時間）。
- 18) 小原は、2012年8月に石川県立看護大学大学院（継続・緩和ケア展開論）で「生命に関わる健康問題に関する患者や家族の意思決定と看護援助」について講義した（6時間）。
- 19) 小原は、2012年9月に筑波大学大学院（がん看護学特論Ⅰ）において「意思決定と看護援助」について講義した（4時間）。
- 20) 小原は、2012年9月に千葉大学看護学部乳がん看護認定看護師教育課程において「治験・臨床試験として治療を受ける患者への看護」について講義した（4時間）。
- 21) 小原は、2012年9月に栃木県看護教員講習会にて「臨地実習指導方法」講義した（16時間）。
- 22) 小原は、2004年より日本がん看護学会誌査読委員を務めた。
- 23) 小原は、2010年4月より日本がん看護学会国際委員会委員を務めている。
- 24) 小原は、2011年10月より厚生労働省臨床研究・治験活性化に関する検討会の構成員を務めている。
- 25) 村上は、栃木県看護教員講習会にて「成人看護学関連講義並びに演習」の講師を務めた。
- 26) 村上は、栃木県看護協会「リーダーシップ（看護教育）」研修会の講師を務めた。
- 27) 村上は、第14回日本救急看護学会学術集会「救急看護におけるDecision Making」において、教育講演「救急看護師のキャリア形成」の座長を務めた。
- 28) 小原、村上、松浦、北村、段ノ上、荒木は、第14回日本救急看護学会学術集会の企画委員ならびに実行委員を務めた。
- 29) 中村、小原、村上、松浦、北村、段ノ上、荒木は、財団法人地域社会振興財団の中央研修会「第5回看護専門研修会」の講師を務めた。
- 30) 中村、村上、松浦は、国立病院機構栃木病院内の臨床看護師を対象に、看護研究の指導を行った。

老年看護学

教授 宮林幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江

准教授 浜端 賢次

講師 川上 勝

講師 清水みどり（2012年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，修士（社会学）

学歴：中京大学大学院社会学研究科博士前期課程修了。

職歴：愛媛大学医学部看護学科助手，新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科講師，同准教授を経て着任。

2. 教育の概要

老年看護学では，様々な生活の場・療養の場で，あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として，看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1) 老年実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）

高齢者の健康特性及び健康評価に基づき，セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に，高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお，水戸美津子客員教授，鮎沢みどり非常勤講師による講義を組み込んだ。

（担当：宮林，浜端，川上，清水）。

(2) 老年実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）

老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし，臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害，皮膚障害，排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。（担当：川上，宮林，浜端，清水）

(3) 老年期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

附属病院および介護老人保健施設，認知症グループホームにおいて，疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

（担当：全教員）。

(4) 生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）（1年次後学期2単位：必修）

老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実際が理解できるよう，関道子臨床講師，鮎沢みどり非常勤講師，船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

（担当：宮林，浜端，川上，清水）

(5) 老年実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワーメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。水戸美津子客員教授によるエンパワーメント，高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実際が理解できるよう，井上佐代子臨床講師，太田信子臨床講師，野澤博子臨床講師，西田俊子臨床助教による講義を組み込んだ。

（担当：浜端，宮林，川上，清水）。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

宮林は島田助教と7名の学生を，浜端は滝助教と8名の学生を担当した。

(2) 文献講読セミナー（2年次前期1単位：必修）

川上と清水は各々10名の学生を担当した。

(3) 看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

13名の学生を対象に，看護実践課題に沿った先行研究の文献検討，総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員4名の学生を担当した。

(4) 総合実習（4年次前学期2単位：必修）

13名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し，実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

(5) 看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

14名の学生を対象に，看護活動の場（病院・施設・在宅）における高齢者に起こりやすいリスクとその対応，予防策について理解が進み，将来展望がもてるよう指導した。（担当：全教員）

(6) 研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

研究方法の理解に基づき自己の看護実践課題を整理することを目的に，10名の学生を対象に，

テーマに沿った先行研究の文献検討，研究計画書の作成への指導を行った（担当：全教員）。

(7)在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

浜端は科目責任者として全体を統括した。老年看護学では，訪問看護ステーション及び通所リハビリテーション施設での学生指導を担当した。（担当：全教員）

3. 研究の概要

- 1) 宮林は，住友商事被災地支援助成による研究課題「被災地の支援と災害による悲嘆」の実践と研究の代表として参加し実施した。連携研究および援助は，住友商事菅井，宮城県名取市教育科中保らであった。
- 2) 浜端は，自治医科大学看護学部看護系教員共同研究費による研究課題「高齢者ケアを実践する看護職のキャリア形成」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。
- 3) 浜端は，科学研究費助成事業（基盤研究（C））（中村由美子代表）「項目反応理論を用いた病気の家族メンバーをもつ家族の家族機能モデルの構築プログラム開発に関する研究」の連携研究者として参加し，同研究を実施した。
- 4) 川上は，文部科学省科学助成金（若手研究（B））による研究課題「転倒・転落事故予防策実施時の介護看護職員の行動解析－安全システム構築を目指して－」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。
- 5) 川上は，自治医科大学看護学部看護系教員共同研究費による研究課題「看護学生向けICLSコースプログラムの教育効果に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員中村，本学部教員里光，本学部教員村上，本学部教員小林，元本学部教員熊谷，元本学部教員荒木，元本学部教員滝，連携研究者は附属病院看護部井上，附属病院看護部小谷，本学医学部河野龍太郎，本学医学部鈴木義彦，本学医学部浅田義和であった。
- 6) 清水は，学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））による研究課題「介護老人保健施設入居者の終末期のQOLとリスク管理に関する看護ケアモデルの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

4. その他

- 1) 宮林は，2012年4月～2013年3月まで宮城県名取市仮設住宅を巡回し，悲嘆に関する講演と悲嘆ケアを実施している。共催 日本グリーンケア協会，住友商事，名取市教育委員会。講演テーマ「悲嘆からの回復－グリーンケアと回想法－」2時間，同日2時間は被災地にて悲しみのケアを実施。同様形式にて9月箱崎仮設，11月美田園第一仮設，12月愛島仮設，2013年2月箱崎仮設にて実施した。
- 2) 宮林は，2012年8月，2013年3月「死別悲嘆反応とそのケア」「複雑な悲嘆とそのケア」（日本グリーンケア協会主催）講義・演習を担当した。 於：東京
- 3) 宮林は，2012年8月 「グリーンケア－家族の悲しみを癒す看護－」の講義をおこなった。（宮城県看護協会主催）
- 4) 宮林は，2012年10月 「高齢者の看護」の講義をおこなった。（福島県看護協会主催） 於：仙台市
- 5) 宮林は，2012年11月「がんで死が近い方への心のケアの在り方」（置賜乳腺ネットワーク主催）の講義をおこなった。 於：米沢市
- 6) 宮林は，2012年11月「老年看護学概論」（茨城県結城看護専門学校）の講義をおこなった。 於：結城市
- 7) 宮林は，2013年3月 フィジカルアセスメント（日綜研主催）の講義を 講演・演習を行った。於：東京，及び仙台市
- 8) 宮林は，2012年度 日本がん看護学会査読委員（専任）を務めている。
- 9) 宮林は，京都科学 フィジカルアセスメント専任講師を務めている。
- 10) 浜端は，栃木県看護協会セカンドレベルにおいて，「保健医療福祉制度改革と組織」について講師を行った。
- 11) 浜端は，栃木県看護協会教員養成講習会において，「臨地実習指導方法演習」の講師を行った。
- 12) 浜端は，本学で開催された臨地実習指導者講習会で「臨地実習指導の実際」を講義した。
- 13) 浜端は，あおもり協立病院で開催された「第13回主任・看護長合同研修会」の講師を行った。
- 14) 浜端は，青森県生活協同組合で開催された職

員研修「4年目研修」で講師を行った。

- 15) 浜端は、NHK文化センター青森教室開校15周年記念講演にて、「認知症を探る ～超高齢社会において、身近に認知症を考える～」の講師を行った。
- 16) 浜端は、青森県NHK文化センターで開催された「物忘れと認知症」、「転ばぬ先の介護保険」の講師を行った。
- 17) 浜端は、介護老人保健施設成寿苑（秋田県大館市）にて、「職員研修」の講師を行った。
- 18) 浜端は、栃木県立栃木女子高等学校において、「出張講義」を行った。
- 19) 浜端は、「自治医科大学看護学ジャーナル第10巻」編集委員会の査読委員を務めた。
- 20) 川上は、上都賀総合病院の看護師を対象に研究課題「転倒転落アセスメントスコアシートの再評価の有効性」、「マニュアルを使った低血糖対応の実態調査」、「スタッフの口腔ケアに対する意識」、「手術室中堅看護師の教育システムの検討」、「緩和ケア教育に関わる講師の意識調査－他職種による講師の役割－」について、研究指導を行った。
- 21) 清水は、「自治医科大学看護学ジャーナル第10巻」編集委員会の査読委員を務めた。

大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授 中島登美子

1. スタッフの紹介

教授 中島登美子

准教授 大脇 淳子

准教授 横山 由美

2. 教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状況にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

本年度は、専攻領域の履修生はなく、開講しなかった。

母子看護学領域「母性看護学」

教授 成田 伸

(1) 大学院教育の概要

平成24年度は専門看護師教育課程を希望する2名の2年次の教育を行った。前期に母性看護専門看護実習を実施、通年で母性看護学課題研究を実施した。実習は、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターおよびへき地における地域支援病院の実習として西吾妻福祉病院において実施した。

院生の状況を配慮しつつ、院生はティーチングアシスタントとして、母性看護学・助産学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し、教育方法について学んだ。

1) 母性看護専門看護実習

成田が科目責任者として調整した。附属病院における実習は、高度看護実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、研究（臨床へのエビデンスの適応）の実践を目的に、院生の課題研究のテーマに沿った複数のケースを受け持ち展開し、課題レポートを作成した。西吾妻福祉病院においては、教育の実践を目的に、病院の現状についてのアセスメント実施した結果を踏まえて、看護スタッフおよび地域の救命救急隊員を対象に新生児蘇生法Bコースの実施、医師・助産師を対象としたAコースの実施を補佐し、その過程を実践報告としてまとめ、課題レポートとすると共に、日本ルーラルナーシング学会第7回学術集会（駒ヶ根市）において報告した。

2) 母性看護学課題研究

院生の能登を成田が、竹田を野々山が指導し、能登は双子の育児の調整、竹田は出生前診断において異常を指摘され出産に至った父親の心理をメインテーマに、課題研究を実施した。その結果、それぞれ「両親が双子を育てるために行った調整に関する体験」「初めての子どもが胎児異常を診断された妊婦の夫の妊娠・出産を通じた体験」の修士論文を作成し、提出した。

健康危機看護学領域 「クリティカルケア看護学」

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 村上 礼子

講師 松浦利江子（2013年3月31日退職）

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

1) クリティカルケア看護学に関する教育概要

(1)クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が10時間、村上が4時間、松浦が4時間、田端邦治非常勤講師（白百合大学文学部宗教科教授）4時間、丹下博一非常勤講師（上智短期大学神学部神学科教授）4時間、本多康生非常勤講師（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）4時間の講義を担当した。

(2)クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1・2年次前学期2単位：必修・選択）

中村が14時間、村上が4時間、松浦が4時間、綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校看護学部看護学科教授）が4時間、中村恵子非常勤講師（札幌市立大学看護学部学部長・教授）が4時間の講義を担当した。

(3)クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1・2年次後学期2単位：必修・選択）

中村が10時間、村上が4時間、松浦が4時間、布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が4時間、竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が2時間、多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間、和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間、鈴川正之非常勤講師（医学部救急医学講座教授）が2時間の講義を担当した。

(4)クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

中村が40時間、村上が12時間、松浦が4時間、藤野智子非常勤講師（聖マリアンナ大学附属病院CNS）が4時間の講義・演習を担当した。

(5)クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1・2年次前学期2単位：必修）

中村が32時間、村上が8時間、松浦が8時間、藤井博文非常勤講師（附属病院臨床腫瘍部学内教授）が4時間、木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院CNS）が8時間の講義・演習を担当した。

(6)クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1・2年次後学期2単位：必修）

中村が36時間、村上が8時間、松浦が4時間、井上莊一郎非常勤講師（附属病院麻酔科講師）が4時間、新貝夫弥子非常勤講師（愛知県がんセンター中央病院看護科CNS）が8時間の講義・演習を担当した。

(7)クリティカルケア看護学特別演習（1・2年次後学期4単位：選択）

中村が36時間、村上が32時間、松浦が16時間、ゼミ形式36時間で講義・演習を担当した。

(8)クリティカルケア専門看護実習（2年次前学期6単位：必修）

高度医療施設を中村が4単位、へき地における病院を中村・村上が2単位、担当した。

(9)健康危機看護学特別研究（2年次6単位：選択必修）

研究指導教員として中村が2名の指導を担当した。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教授 半澤 節子

教授 永井 優子

2. 教育の概要

精神看護学では、主として精神的な健康危機状態について、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う上級の精神看護実践専門職として、役割を果たすことができ、実践状況を変革できる人材育成を目指した教育活動をしている。

平成23年度に入学し、実践看護学分野健康危機看護学領域の精神看護学の科目を主科目群として選択した長期履修の大学院生（1名）に対して、半澤が担当教員として研究指導を開始し、永井教授と半澤で分担し、精神看護学主科目群の授業科目として講義及び演習を指導した。平成24年度の開講科目は、前期に「精神看護学講義Ⅱ（2単位 半澤・永井担当）」「精神看護学講義Ⅲ（2単位 半澤・永井担当）」、後期に「精神看護学演習Ⅲ（2単位 半澤・永井・非常勤講師担当）」「精神看護学特別演習」（4単位 半澤担当）である。

【精神看護学講義Ⅱ】

講義Ⅱの授業目標である精神障害者のリハビリテーションを促進し、社会参加を支える制度とシステムについて理解し、精神的健康の増進から重度精神障害者の支援までにかかわる精神看護実践の専門職としての役割について探究することができた。

【精神看護学講義Ⅲ】

講義Ⅲの授業目標である精神看護実践で複雑な臨床的問題（身体合併症、長期入院、複雑な家族背景、自傷他害行為など）を解決するために必要な理論と技術を学修し、精神看護実践で生じている問題に関する分析方法、および対象者をエンパワーし、リカバリーを支える援助の提供方法を体系的な視野も含めて探究することができた。

【精神看護学演習Ⅲ】

演習Ⅲの授業目標は、長期慢性状態や身体合併

症、複雑困難な家族関係などを伴う複雑な健康状態及びセルフケアのアセスメントの理論や方法について学び、事例を通してアセスメント、看護計画について演習することである。そのための演習課題として、学生自らが経験した複雑困難事例などを教材とし、セルフケア、家族支援、社会資源の活用という視点も踏まえたアセスメント及び看護計画について再検討し、精神看護領域を専門とする高度実践看護師としての役割について実践的に検討した。また、身体合併症を持つ精神障害者に対する看護実践については、非常勤講師による授業を開催した。

【精神看護学特別演習】

精神看護学特別演習の授業目標は、精神保健看護に関連する院生の研究テーマについて、先行文献の検討を通して研究テーマを精査し、研究計画書を作成し、看護学研究倫理審査会に申請することである。

精神保健看護に関する受講生の実践経験を振り返りながら、研究テーマを焦点化し、研究テーマに関連する国内外の先行文献を収集し十分な検討を踏まえ、研究テーマを再検討した。研究目的の設定とそれを明らかにするための研究方法の吟味、先行文献で用いられている研究方法を概観しつつ、自らの研究方法を検討し、本研究における仮説を見出した。先行研究を踏まえた研究の背景、本研究の目的、研究方法、倫理的課題を検討し、研究計画書を完成させることができた。

がん看護学領域「がん看護学」

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香
准教授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。この領域はがん看護学のみで、がん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。

1) がん看護学に関する教育概要

平成24年度の入学者は1名である。標準コースにて講義・演習を開始した。他1名は前期科目単位既修得にして後期科目より受講している。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの疫学、病態生理、診断、治療法に関する最新知見を理解する。がん患者およびその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し、最新のケア実践への適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、がんの疫学、病態、診断、治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を、学生によるプレゼンテーション、討議を通して最新のケア実践へ繋げる方策を考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師9名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を理解する基盤となる概念や理論を学び、看護モデ

ルへの適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため、国内外の文献と討議をもとに、がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論、ニューマン理論、危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション、討議をし、それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から包括的にアセスメントする方法を学修することを授業目標とした。がん患者とその家族の健康問題を身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな視点から包括的にアセスメントするための観察スキルの習得や、専門的コミュニケーションスキルを習得するため、3回（2コマずつ）シリーズで行った。また各期（急性期～終末期に至る）におけるがん患者とその家族の症状アセスメントを実践事例の分析を通して系統的に習得する方法を教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護の基盤となる概念や理論、および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して、がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題に対する自己の看護観の洞察や、専門的な看護実践の介入方法を学修することを授業目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し、発表と討議を通して自己の看護観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を、がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し、プレゼンテーション、討議を通して実践への適用を検証及び考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師5名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

がん診断から終末期に至るまで、様々な健康問題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供するための専門

的な看護支援方法を探究することを授業目標とした。各領域（周手術期，化学療法，放射線療法，遺伝性のがん看護，長期療養過程にある看護，終末期にある看護，地域看護）の様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法を，各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため，実践事例に基づきプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師8名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

様々な健康課題を抱えるがん患者・家族に緩和ケアを提供するための専門的な看護支援の実際を，CNSの6つの機能（実践，教育，相談，調整，倫理，研究）に基づいて学修することを授業目標とした。実践事例や国内外の文献を検討し，質の高い緩和ケア提供方法を探究するため，プレゼンテーション，討議を通して，がん看護や緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，非常勤講師3名が担当した。

以上

老年・地域看護管理学領域 「老年看護管理学」

教授 宮林 幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江

准教授 浜端 賢次

2. 教育への概要

対象高齢者とは、健康障害と折り合いをつけつつ、家族（独居）、または施設を活用し生きる生活者である。基盤となる生活の場が変化しつつも治療・加療環境の維持・継続やマネジメントを可能とする他部門との協働や必要な実践について理解するばかりでなく、クリエイティブな実践法や制度について探求していくことを目指し、地域で生活する健康障害を持つ高齢者とその家族に対し健康的な生活を支援でき、かつ健康な高齢者の健康保持・増進にも積極的に寄与する看護管理能力の取得を目指した人材の育成を教育目標としている。

老年・地域看護管理学領域 「地域看護管理学」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗
准教授 鈴木久美子
准教授 塚本 友栄

2. 教育の概要

地域看護管理学を履修している1年生は2名、2年生は2名（2年目1名、3年目1名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位、春山担当）、「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位、春山・鈴木担当）、「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位、春山・非常勤講師担当）、「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位、春山・鈴木・非常勤講師担当）、「地域看護管理学演習」（4単位、春山・鈴木・塚本担当）、「地域看護管理学特別演習」（4単位、春山、鈴木、塚本担当）、「老年・地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に係る主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生2名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は、実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の

展開方法、施策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。1年生2名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は、山間へき地や離島、豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は、地域特性とヘルスニーズの分析から、地域における看護提供体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生2名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、県内保健所2カ所において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生1名が履修した。文献検討、並びに、学生自身の研究テーマと関連させて、山村過疎地域を有する県内1市及び当該市を管轄する保健所でフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を精練した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行い、塚本が研究指導を補助した。

修士論文のテーマは「特定機能病院における外来看護師の電話による療養支援内容」であった。

共通科目

大学院看護学研究科
幹事長 中村 美鈴

看護学研究科の教育課程において、看護学の高度専門職に求められる看護実践能力の育成強化を目指し、教育課程を構成し、「共通科目」と「専門科目」を置いている。平成24年度に開講された共通科目は、「地域医療論」担当教員：春山早苗12コマ「看護管理・政策論」，「看護倫理」，「看護実践研究論」，「看護継続教育論」，「コンサルテーション論」，「地域調査法」，「フィジカルアセスメント特論」という8科目（各2単位）を開講した。いずれの科目も選択科目であり、前期もしくは後期科目として開講されている。共通科目はいずれも、1・2年次の配当科目となっており、いずれの年次にも履修することが可能となっている。

なお、このうち、「看護管理・政策論」，「看護倫理」，「看護実践研究論」，「看護継続教育論」，「コンサルテーション論」の5科目は、専門看護師教育課程の共通科目として認定されている。

【地域医療論】

本科目は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することを目標に、地域ニーズの捉え方及びその展開方法、地域の保健医療施設の有機的連携等の実際等について教授する。

地域医療論（共通単位2単位：選択）

春山が12コマ（18時間）、梶井が1コマ（1.5時間）、大嶽が1コマ（1.5時間）、神田が1コマ（1.5時間）の講義を担当した。

【看護管理・政策論】

本科目は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動管理の組織化の方法並びに看護制度、政策的働きかけについて学修することを目標に、保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための機能・役割や活動方法等を教授する。

看護管理政策論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

塚原が7コマ（10.5時間）、春山が1コマ（1.5時間）、宮林が1コマ（1.5時間）、加藤が1コマ（1.5時間）、朝野が1コマ（1.5時間）、水流が2コマ（3

時間）、福田が1コマ（1.5時間）、矢野が2コマ（3時間）の講義を担当した。

【看護倫理】

本科目は、看護場面における複雑な判断を要する倫理的課題に関して、看護専門職としての立場から果たすべき機能について学修することを目標に、倫理的葛藤や課題並びに倫理的調整活動に必要な知識を教授する。

看護倫理（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

小原が2コマ（3時間）、塚原が2コマ（3時間）、加藤が2コマ（3時間）、服部が2コマ（3時間）、加藤・渥美・小原が共同で7コマ（10.5時間）の講義を担当した。

【看護実践研究論】

本科目は、看護分野における実践研究の特徴を知り、その実際について学修することを目標に、専門的看護の質の向上に寄与する看護研究をすすめていく上での各種研究法の具体的展開について教授する。

看護実践研究論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

半澤が3コマ（4.5時間）、中村が5コマ（7.5時間）、永井が5コマ（7.5時間）、大塚が2コマ（3時間）の講義を担当した。

【看護継続教育論】

本科目は、生涯学習の視点から看護継続教育の現状を理解し、看護の継続教育に関する知識と技術について学修することを目標に、看護ケアの質を高めるために必要な上級看護職者が行う教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。

看護継続教育論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

本田が2コマ（3時間）、塚原が5コマ（7.5時間）、塚本が5コマ（7.5時間）、水戸が3コマ（4.5時間）の講義を担当した。

【コンサルテーション論】

本科目は、コンサルテーションによる理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討することを目標に、上級看護

職が必要とするコンサルテーション技能と役割について教授する。

コンサルテーション論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

永井が9コマ（13.5時間）、広瀬が2コマ（3時間）、永井・広瀬・半澤・塚本が共同で4コマ（6時間）の講義を担当した。

【地域調査法】

本科目は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法並びに分析方法等を学修することを目標に、地域において効果的かつ効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題やニーズを把握するための質的・量的調査法を教授する。

地域調査法（共通単位2単位：選択）

渡邊が5コマ（7.5時間）、春山が5コマ（7.5時間）、大塚が5コマ（7.5時間）の講義を担当した。

【フィジカルアセスメント特論】

本科目は、身体の急激な変調とその原因・要因となる病態を捉え、治療ならびに看護援助に生かすためのアセスメントを、実例を通して学修することを目標に、特に救急、慢性疾患の治療、在宅患者における病態評価に重点をおいて教授する。

フィジカルアセスメント特論（共通単位2単位：選択）

本田が15コマ（22.5時間）の講義を担当した。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗	教授 中村 美鈴
教授 永井 優子	教授 成田 伸
教授 半澤 節子	教授 本多 芳香
教授 宮林 幸江	教授 野々山未希子
教授 大塚公一郎	教授 塚原 節子
教授 渡邊 亮一	
准教授 小原 泉	准教授 塚本 友栄
准教授 横山 由美	講師 飯塚 秀樹

2. 教育の概要

今年度（平成24年度）に開設した博士後期課程は入学定員が2名であり、1年生は2名、うち1名が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学特論Ⅱ」（2単位、選択）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究」（6単位、必修、1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「異文化精神医療論」（2単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究方法）春山・成田担当】

本科目では、講義や学生のプレゼンテーション、それらを踏まえた討議を通して、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究した。1年生2名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究方法）中村・横山担当】

本科目では、講義や学生のプレゼンテーション、それらを踏まえた討議により、看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論及び方法

についての批判的吟味を行い、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を探究した。1年生2名が履修した。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指した。

1年生2名ともが、システムに関するテーマについては「ヘルスケアシステム」（春山・本田担当）を、看護ケアに関するテーマについては「メンタルヘルスケア」（半澤・永井担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

1年生1名は春山が主の、永井・本田が副の、もう1名は成田が主の、中村・春山が副の研究指導教員となり指導している。

また、博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーを6月、9月、11月、1月の年4回開催した。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に、11月、1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

【異文化精神医療論 大塚・飯塚担当】

本科目では、講義や演習を通して、異文化精神医療に関する研究構想へ繋げるための基本的知識、精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究を教授した。さらに、人文・社会科学などの隣接科学における最近の異文化研究の知見や異文化コミュニケーションにおける言語の役割についても学修した。1年生2名が履修した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2012年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

1) Shanks NF, Savas JN, Maruo T, Cais O, Hirao A, Oe S, Ghosh A, Noda Y, Greger IH, Yates JR 3rd, Nakagawa T : Differences in AMPA and kainate receptor interactomes facilitate identification of AMPA receptor auxiliary subunit GSG1L. *Cell Rep*, 1(6):590-598, 2012.

2) 大塚公一郎：『ナヴェン』から『精神と自然』に至るBateson認識論－Kretschmerの類型の引用との関連で－. *精神医学史研究*, 16:59-67, 2012.

3) 大塚公一郎：非定型精神病の典型例. *精神科治療学*, 27:907-911, 2012.

4) 大塚公一郎, 加藤 敏：慢性統合失調症における生殖・世代主題. *精神経誌*, 114:1133-1148, 2012.

5) 飯塚秀樹, 長橋雅俊：Consecutive Interpreting Approach に基づくプロソディー重視の口頭練習がL2筆記再生に与える効果（2011年度ELEC賞受賞論文・特別講演）. *一般財団法人英語教育協議会特別誌*, 4-15, 2012.

(2) 学会発表

1) Hirao A, Takigami S, Sugahara K, Tsukahara N, Yokosuka M, Sugita S, Noda Y : Morphology of the lateral nasal gland duct in domestic chicken *Gallus gallus domesticus*. XVI International Symposium on Olfaction and Taste, Stockholm Sweden, 2012.

2) 渡邊亮一：医療情報技師育成事業のこれまで（医療情報技師育成事業10周年記念フォーラム）. 第32回医療情報学連合大会（第13回日本医療情報学会学術大会）, 新潟. 2012年11月15日.

3) 大塚公一郎：うつ, ひきこもり, 見かけのレジリアンスの時代. 第19回多文化間精神医学会学術総会, 福岡. 2012年6月24日. (プログラム・抄録集, p.62, 2012.)

4) 北田志郎, 大塚公一郎, 加藤 敏：在宅医療と多文化間精神医学. 第19回多文化間精神医学会学術総会, 福岡. 2012年6月24日. (プログラム・抄録集, p.98, 2012.)

5) 大塚公一郎, 加藤 敏：享楽と法の観点から

みた虚偽主題－ことばの「病い」としての躁うつ病－. 第35回日本精神病理・精神療学会, 名古屋. 2012年10月6日. (臨床精神病理, 34:125-126, 2013.)

(3) 著書・総説

1) 大塚公一郎, 加藤 敏：レジリアンスの概念. 今日精神疾患治療方針(樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田 隆, 中込和幸, 藤上雅子編). 医学書院, pp946-947, 2012.

2) 大塚公一郎：文化の諸相とレジリアンス. レジリアンス文化創造(加藤 敏編). 金原出版, pp.16-29, 2012.

(4) 実践報告

1) 飯塚秀樹：逐次通訳法による口頭練習が英語コミュニケーション能力に与える影響. 茨城県高等学校教育研究会英語部研究紀要, 24:47-49, 2012.

2) 飯塚秀樹：逐次通訳アプローチに基づく医学英語教育の実践とその考察. *自治医科大学看護学ジャーナル*, 9:25-36, 2012.

(5) その他（報告書, 学会以外での発表等）

1) 渡邊亮一：医療情報技師育成事業10周年を迎えて. 「日本医療情報学会医療情報技師育成事業10周年記念誌」所収, pp.5-7, 一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会（東京）, 2012.

2) 渡邊亮一：上級医療情報技師能力検定試験. 「日本医療情報学会医療情報技師育成事業10周年記念誌」所収, pp.51-52, 一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会（東京）, 2012.

3) 渡邊亮一：病院概論. 「ホスピタルエンジニア認定のための講習会テキスト」所収. pp.1-4, 一般社団法人日本医療福祉設備協会（東京）, 2012.

4) 岡本悦司, 小橋 元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 西浦 博, 横山英世, 岡田充史, 尾島俊之, 亀崎豊実, 高橋美保子, 富田敦子, 山本秀樹, 渡邊亮一：サブノートF第36版 保健医療論・公衆衛生学(2013年版). *Medic Media*（東京）, 2012.

5) 大塚公一郎：書評『語る記憶－解離と語りの文化精神医学』. *こころと文化*, 11:88-89, 2012.

6) 飯塚秀樹：新学習指導要領に向けた高校英語

授業の工夫－Consecutive Interpreting Approach
と全商英検対策－. 千葉県高等学校教育研究会・
千葉県商業教育研究会主催）平成24年度ビジネス
英語指導者研修会, 千葉県立千葉商業高等学校,
2012年7月24日.

7) 飯塚秀樹：新学習指導要領に向けた高校英
語授業の工夫 4技能を統合したコミュニカティ
ブな授業の進め方 通訳訓練法に基づいた指導
をどう実践するか Consecutive Interpreting
Approach について. ELEC（一般財団法人）英
語教育協議会夏期英語教育研修会, ELEC英語研
修所（東京都千代田区）, 2012年8月15日.

8) 平尾温司：ニワトリの外側鼻腺管は嗅上皮以
外の嗅覚器官か. 鋤鼻研究会, 岩手県盛岡市つな
ぎ温泉, 2012年7月.

基礎看護学

(1) 論文

- 1) 本田芳香, 春山早苗, 朝野晴美, 上野久子
他: 大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性, 自治医科大学看護学ジャーナル10:47-56, 2012
- 2) 朝野晴美, 塚本友栄, 春山早苗, 本田芳香
他: A病院に勤務する看護職員のキャリア・アンカーの特徴, 自治医科大看護学ジャーナル10:69-74, 2012.
- 3) 川島ゆりこ, 本田芳香: コミュニティソーシャルワーク実践へのアプローチの方向性—コミュニティソーシャルワーカー養成研修受講者アンケート分析を基に—日本地域福祉学会誌19:13-20, 2012
- 4) 里光やよい, 今野葉月, 須釜なつみ, 市塚京子, 佐藤淳子, 鈴木照実, 古橋洋子: 看護師長が語る中堅看護師育成についての認識と対応, 自治医科大学看護学ジャーナル, 第10巻:93-102, (2013).
- 5) 高山詩穂・水戸美津子: 高齢者に対する口腔内・鼻腔内吸引のリスクと安全な技術, 看護実践の科学, Vol.37 No.5 pp.46~53, 看護の科学社, 2012.
- 6) 高山詩穂: あらためて医療安全を考える 医療事故の経験から伝えたいこと, 日本腎不全看護学会誌, 第14巻1号, pp.24~30. 2012.
- 7) 高山詩穂: 医療事故の経験から伝えたいこと, 日本血液浄化技術学会会誌20(2):12-14, 2012.

(2) 学会発表

- 1) Izumi Kohara(Finalist of Poster competition), Yuji Takei, Hiroyuki Fujiwara, Mitsuaki Suzuki and Yoshika Honda: Supporting patients' decision-making process regarding a cancer clinical trial: A case study, SoCRA, 20th Annual Conference, Sep 23 to 25, 2012, San Diego, CA, USA.
- 2) Izumi Kohara, Noriko Morishita, Shoji Yamazaki, Taku Yoshio, Yukihiro Koretsune and Yoshika Honda : Structure of care for patients who participate in clinical trials from clinical research coordinators, SoCRA, 20th Annual Conference, Sep 23 to 25, 2012, San Diego, CA,

USA

- 3) 高山詩穂・高木初子・水戸美津子: 高齢者の口腔吸引・鼻腔吸引に伴うリスク要因の検討～FMEA (Failure Mode and Effects Analysis) を用いて～. 日本看護技術学会第11回学術集会, 福岡, 2012年
- 4) 高山詩穂, 本田芳香, 塚原節子, 里光やよい, 宇城 令, 熊谷祐子, 滝 恵津, 福田順子, 大澤弘子, 浅田義和: 看護過程展開演習における思考力向上を目指したマインドマップ活用に関する一考察, 第5回医療教授システム学会学術集会, 東京, 2012
- 5) 滝 恵津, 本田芳香, 塚原節子, 里光やよい, 宇城 令, 熊谷祐子, 高山詩穂: 看護技術演習DVD教材開発を通して看護教員が獲得する暗黙知, (日本看護技術学会第11回学術集会, 福岡, 9月17日(2012), 第11回学術集会講演抄録集:83, (2012))
- 6) 小原 泉, 藤原寛行, 竹井裕二, 町田静生, 鈴木光明, 本田芳香: 卵巣癌第Ⅲ相試験のインフォームドコンセントにおける患者の心理状態と理解度, 第50回日本癌治療学会一般演題, 2012年
- 7) 小原 泉, 是恒之宏, 山崎晶司, 吉尾 卓, 本田芳香: 臨床研究コーディネーターによる被験者ケアの構造, 日本臨床試験研究会第4回学術集会, 2012年
- 8) 本田芳香, 神田早苗, 中山智恵子: 緩和ケア病棟看護師の感情体験に関する研究, 第27回日本がん看護学会学術集会, 2012年

(3) その他(報告書, 学会以外での発表等)

- 1) 里光やよい: 間違っていますか? 中途採用者との関わり方・接し方, Nursing BUSINESS, 6巻 (5号):388-393, (2012).

地域看護学

(1) 論文

1) 塚本友栄, 郷間悦子, 村上貴子, 阿久津梢, 永岡明子, 河野順子, 福島道子: 退院調整看護師等を対象とした交流会参加者の声から捉えたA県下医療施設における退院調整の現状と課題. 日本看護学会論文集 看護総合, 42, :257-260, 2012.

2) 関山友子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 島田裕子, 工藤奈織美, 春山早苗, 田中牧子: 中規模へき地医療拠点病院の看護職員の労働実態と教育研修体制の現状と課題. 日本ルーラルナース学会誌, 7:31-41, 2012.

3) 千葉理恵, 木戸芳史, 宮本有紀, 川上憲人: 精神障害をもつ人々と共に地域で心地よく生活するために, 地域住民が不足していると感じているもの - 東京都民を対象とした調査の質的分析から -. 医療と社会, 22(2): 127-138, 2012.

(2) 学会発表

1) 人見優子, 春山早苗, 塚本友栄: 急性期病棟における病棟看護管理者の退院支援に関わる看護管理活動. 第16回日本看護管理学会年次大会, 札幌. 2012年8月23日. (第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集: 203, 2012)

2) 春山早苗, 鈴木久美子, 塚本友栄, 島田裕子, 関山友子, 青木さぎ里, 工藤奈織美, 舟迫 香: へき地における市町村保健師活動の優先性の判断. 日本ルーラルナース学会第7回学術集会, 駒ヶ根. 2012年9月15日. (日本ルーラルナース学会第7回学術集会抄録集: 25, 2012)

3) Chiba R, Umeda M, Goto K, Miyamoto Y, Yamaguchi S: Dimensions regarded as important for belief in the possibility of recover for people with mental illness: A qualitative analysis of diverse professionals in mental health care in Japan. All Together Better Health VI (ATBH VI), Kobe, October 6, 2012, (All Together Better Health VI Programme & Abstract Book; 401, 2012)

4) 千葉理恵, 梅田麻希, 宮本有紀, 山口創生, 川上憲人: 精神科専門職者における日本語版 Recovery Knowledge Inventoryの信頼性・妥当性の検討. 第71回 日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月24日, (日本公衆衛生雑誌 59(10); 445,

2012)

5) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 大内佳子, 松下清美, 加藤静子, 小窪和博: 東日本大震災の被災市町村における発災後の保健活動体制再構築の様相. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月25日. (第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 479, 2012)

6) 鈴木久美子, 青木さぎ里, 島田裕子, 塚本友栄, 春山早苗, 塩ノ谷朱美, 工藤奈織美, 中尾八重子: 山村過疎地域が内在する合併市町の保健師活動における地区管理の視点 (その1). 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月26日.

(第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 524, 2012)

7) 塩ノ谷朱美, 青木さぎ里, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 工藤奈織美, 中尾八重子: 山村過疎地域が内在する合併市町の保健師活動における地区管理の視点 (その2). 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月26日.

(第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 524, 2012)

8) 中尾八重子, 青木さぎ里, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 塩ノ谷朱美, 工藤奈織美: 離島 (地域) を有する合併市町の保健師活動における地区管理の視点. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月26日. (第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 525, 2012)

9) 山口佳子, 荒木田美香子, 大神あゆみ, 小西かおる, 中板育美, 春山早苗, 藤井広美, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質の評価指標案の適切性と実行可能性 (第1報) - 精神保健福祉活動 -. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月26日. (第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 525, 2012)

10) 藤井広美, 中板育美, 山口佳子, 荒木田美香子, 春山早苗, 大神あゆみ, 小西かおる, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質の評価指標案の適切性と実行可能性 (第1報) - 健康づくり活動 -. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口. 2012年10月26日. (第71回日本公衆衛生学会総会抄録集59(10); 525, 2012)

11) 千葉理恵, 宮本有紀, 山口創生: 精神科専門職者を対象とした, 日本語版7項目版Recovery Attitude Questionnaire (RAQ-7)の信頼性と妥当性の検討. 日本精神障害者リハビリテーション学会

第20回神奈川大会，神奈川，2012年11月18日，（日本精神障害者リハビリテーション学会 第20回神奈川大会 プログラム抄録集; 120)

12) 山口創生，贅川信幸，米田恵子，種田綾乃，千葉理恵，伊藤順一郎: 根拠に基づく実践の経験と精神障害者およびリカバリーに対する態度との関係：クロス・セクショナル研究. 日本精神障害者リハビリテーション学会 第20回神奈川大会，神奈川，2012年11月18日，（日本精神障害者リハビリテーション学会 第20回神奈川大会 プログラム抄録集; 126)

(3) その他（報告書，学会以外での発表等）

1) 春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，工藤奈織美，島田裕子，後藤光代，福田順子，工藤祝子，山本恵美子，宮田直美：へき地医療支援機構によるへき地で働く看護職への先進的支援事例に関する面接調査. 自治医科大学看護学ジャーナル，9：37-38，2012.

2) 塚本友栄，春山早苗，成田 伸，鈴木久美子，工藤奈織美，小川朋子，関山友子，島田裕子，後藤光代，小谷妙子，福田順子，渡邊芳江，工藤祝子，宮田直美，山本恵美子：へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題. 自治医科大学看護学ジャーナル，9：39-40，2012.

3) 春山早苗：感染症対策の評価指標案の適切性と実行可能性. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）「保健活動の質の評価指標開発」総括・分担研究年度終了報告書，40-45，2012.

4) 宮崎美砂子，奥田博子，春山早苗，牛尾裕子，岩瀬靖子，大内佳子，松下清美，加藤静子，小窪和博：東日本大震災被災地の地域保健基盤の組織体制のあり方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金「地域健康安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究」平成23年度分担研究報告書，1-38，2012.

5) 春山早苗，塚本友栄，鈴木久美子，関山友子，島田裕子，小谷妙子，福田順子，渡邊芳江，宮田直美，工藤祝子，後藤光代：へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研

究」平成23年度総括・分担研究報告書，131-187，2012.

6) 塚本友栄：看護職者としての基盤づくりとその発展を支える教育 新人看護師の看護職者としての発達に対する支援 就業を継続できた新人看護師の経験から考える，日本看護教育学学会，千葉，2012年8月26日.（看護教育学研究21（2）；24-25，2012)

7) 春山早苗：地域社会における再生のための取り組み－離島・山村過疎地域における市町村の保健師活動事例から－，第32回日本看護科学学会学術集会シンポジウムⅡ，東京，2012年12月1日.（第32回日本看護科学学会学術集会講演集；149，2012)

精神看護学

(1) 論文

1) Hanzawa S : Toward an effective family support system in Japan. *International Journal of mental health*. 2012; 41: 82-96.

(2) 学会発表

1) Hanzawa S : Caregiver experiences of people with schizophrenia comparison Korea and Japan. 15th Pacific Rim Congress of Psychiatry, Seoul, Korea, 2012.10.25-27.

2) Bae YJ, Tanaka H, Park JH, Hanzawa S, et al. : Caregiver burden of people with schizophrenia in Korea. (Poster Presentation), 15th Pacific Rim Congress of Psychiatry, Seoul, Korea 2012.10.25-27.

3) Nosaki A, Otsuka K, Hanzawa S, Iwasaki Y : Developing community-based program to improve resilience of Japanese-Brazilian children in Japan for mental health promotion. 15th Pacific Rim Congress of Psychiatry, Seoul, Korea 2012.10.25-27.

4) Masahiko kawano, Ken Inada, Hidehiro Oshibuchi, Hiroyuki Muraoka, Takaaki Kawano, Junko Miyagi, Jun Ishigoka : The effect of valproic acid on excessive dopamine release in the amygdala in response to conditioned fear stress: An in vivo micro-dialysis study in methamphetamine sensitized rats. CINP, Stockholm. 2012年6月. (Abstracts 2012)

5) 相澤和美, 宮城純子, 石田正人 : 訪問看護ステーションのうつ病ケアに関する実態調査. 第9回うつ病学会, 東京. 2012年7月. (第9回うつ病学会抄録集 2012)

6) 河野仁彦, 稲田 健, 押淵英弘, 村岡寛之, 河野敬明, 宮城純子, 河西亜希子, 石郷岡純 : ストレス脆弱性モデル動物へのVPA投与と偏桃体ドパミン動態への影響の解析. 第23回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神屋薬理学会合同年会, 栃木. 2012年11月. (第23回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神屋薬理学会合同年会抄録集 2012)

7) 河野仁彦, 稲田 健, 押淵英弘, 村岡寛之, 河野敬明, 宮城純子, 河西亜希子, 石郷岡純 : 偏

桃体ドパミン動態に及ぼすバルプロ酸の効果解析. 第31回躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会, 大分. 2012年11月. (第31回躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会抄録集 2012)

8) 板橋直人, 小池純子, 永井優子, 半澤節子, 宮城純子 : Beliefs towards people living in the community with schizophrenia among psychiatric nursing staff: Promoting person-centered care in team nursing. 第6回アンチスティグマ文化会国際会議, 東京. 2013年2月. (第6回アンチスティグマ文化会国際会議抄録集 2013)

9) 種田綾乃, 宮城純子, 中谷陽二 : 地域住民の精神障害者との関わり合いにおける臨機応変な対応の獲得過程—当事者団体との継続的な関わりを持つ住民に対するインタビュー調査から—. 第28回社会精神医学会, 熊本. 2013年3月. (第28回社会精神医学会抄録集 2013)

(3) 著書・総説

1) Hanzawa S : Family Caregivers of people with schizophrenia in East Asian countries. Edited by Burne THJ, *Schizophrenia in the 21st Century*, InTech, ISMN 978-953-51-0315-8. Croatia, March 2012.

2) Hanzawa S, et al. : Psychiatric nurses' beliefs about the treatability of schizophrenia in Japan. Edited by Sumiyoshi T, *Schizophrenia research: Recent advances*, Nova Science Publishers, ISMN 978-1-61942-459-3. USA, Jul 2012.

3) 野末聖香, 野嶋佐由美, 永井優子, 岡田佳詠, 佐久間えりか, 宇佐美しおり, 田代 誠, 福嶋好重, 福田紀子, 日本精神保健看護学会学術連携委員会: APNによる医行為を含むケア・プロトコール試案, 日本精神保健看護学会誌21(1), 28-54, 2012.

母性看護学

(1) 論文

- 1) 高橋斉子, 成田 伸: 早産児の母親が長期間搾乳を継続する過程で直面する困難と搾乳継続を支えた要因. 日本母性看護学会誌, 12 (1): 19-26, 2012.
- 2) 高木友子, 成田 伸: うつ病をもつ妻とその夫にとっての妊娠, 出産, 育児を通しての夫婦の体験. 日本母性看護学会誌, 12 (1): 35-42, 2012.
- 3) 樋貝繁香, 成田 伸: 超低出生体重児の父親が看護師に求める支援～3名の父親を対象に～. 栃木県母性衛生学会雑誌, 38, 5-10, 2012.
- 4) 成田 伸: 周産期ハイリスクケアの構築. 助産雑誌, 66 (3): 210-215, 2012.

(2) 学会発表

- 1) 片平有紀, 武藤香子, 藤川智子, 成田 伸: 栃木県助産師会会員における新生児蘇生法講習会受講状況と今後の課題. 第37回栃木県母性衛生学会, 宇都宮市. 2012年6月30日.
- 2) 成田 伸, 宇山房子, 土屋幸子: 栃木県助産師再就業研修および就業支援研修4年間の成果. 第37回栃木県母性衛生学会, 宇都宮市. 2012年6月30日.
- 3) 野々山未希子: 若者へのSTI予防啓発について－中学生への予防教育を通して感じたこと－. 日本性感染症学会第25回学術大会, 岐阜. 2012年12月8日. (日本性感染症学会誌, 23 (2): 28, 2012)
- 4) 和久紀子, 石崎美知子, 堀田富士江, 芝田あけみ, 駒場千裕, 齋藤良子: 臨床看護師がキネステイクス®に基づく介助を新たに学習する過程の戸惑いと困難. 第11回日本看護技術学会学術集会, 福岡市. 2012年9月17日. (第11回日本看護技術学会学術集会－講演抄録集－; 85, 2012)
- 5) 角川志穂: 孫育てにおける家族内役割関係葛藤の要因と対応の実態. 第53回日本母性衛生学会総会 学術集会, 福岡, 2012年11月16日. (母性衛生53 (3): 178, 2012.)
- 6) 大関信子, 佐藤 愛, 谷田部仁子, 葛西紗幸, 池田礼美: 分娩形態, 分娩時の「つらさ」と産後うつとの関連. 第26回日本助産学会学術集会, 札幌市. 2012年5月2日. (日本助産学会誌, 25 (3): 210, 2012)

(3) その他（報告書, 学会以外での発表等）

- 1) 角川志穂, 成田 伸, 齋藤良子, 小川朋子, 大海佳子, 金田陽子, 寒河江かよ子, 高木友子, 高橋斉子, 立木歌織: 児がNICU入院中の母乳育児支援の効果についての研究. 自治医科大学看護学ジャーナル, 9, 41, 2012. (自治医科大学看護学部共同研究費報告)

小児看護学

(1) 論文

- 1) 中島登美子：先天性健康障害をもつ子どもと家族への看護実践の課題. 日本小児看護学会誌, 21(3) : 8-13, 2012.
- 2) 有本 梓, 横山由美, 西垣佳織他：訪問看護師が在宅重症心身障害児の母親を支援する際に重要と考えている点, 日本地域看護学会誌, 14 (2), 43-52, 2012.

(2) 学会発表

- 1) Tomiko Nakajima, Keiko Ohmi: Formation of the Sleep-Wake Rhythm of Low Birth Weight Infants Who Have Received Developmental Care. 12th National Neonatal Nurses Conference, Chicago USA. September 5-8 2012. (Academy of Neonatal Nursing LLC, 12th National Neonatal Nurses Conference 72, 2012)
- 2) 中島登美子：新生児集中治療室(NICU)から家庭への移行期における低出生体重児の発達を支えるケアの継続性. 第32回日本看護科学学会学術集会, 東京都. 2012年12月1日. (第32回日本看護科学学会学術集会講演集 ; 455, 2012)
- 3) 横山由美：日本発達障害学会第47回研究大会, 横浜, 日本発達障害学会第47回研究大会発表論文集 2012. 8.
- 4) 玉村尚子, 横山由美：第38回日本重症心身障害学会学術集会, 東京, 第38回日本重症心身障害学会学術集会プログラム・抄録特集号 37 (2), 331, 2012.

(3) 著書・総説

- 1) 小林京子：家族の円環的な関係を研究する. 保健の科学, 54 (9) : 613-617, 2012.

成人看護学

(1) 論文

1) Reiko Murakami, Tamiko Matsuda, & Kikuyo Koitabashi: Effect on cardiovascular system and autonomic nervous system in healthy adults with different body types while performing movements simulating washing of the lower limbs for cardiac rehabilitation. Japan Journal of Nursing Science, 9: 149-159, 2012.

2) 平良由香利, 中村美鈴: 心筋梗塞を発症した成人の復職に伴う困難と対応 (第2報). 日本クリティカルケア看護学会誌, 8(1): 40-51, 2012.

3) 内海香子, 中村美鈴: 血糖調節機能障害をもつ成人の理解を深める体験型演習プログラムの内容と教育方法の検討 (原著論文). 自治医科大学看護学ジャーナル, 9: 13-23, 2012.

4) 北村露輝, 中村美鈴, 内海香子, 崎田マユミ, 松浦利江子, 段ノ上秀雄: 上部消化管がん患者の術後機能障害の緩和を目指した看護師とのパートナーシップのあり方. 自治医科大学看護学ジャーナル, 9: 45-47, 2012.

5) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 内海香子, 崎田マユミ, 松浦利江子, 北村露輝: ペースメーカー埋め込み術を受けた成人の病棟看護師による退院後の日常生活についての看護支援に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル, 9: 43-44, 2012.

6) 橋本幹子, 中村美鈴, 内海香子: 2型糖尿病をもつ長距離運転者が認知しているPoor Controlの要因. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10: 13-22, 2012.

7) 段ノ上秀雄, 北村露輝, 松浦利江子, 荒木智絵, 小原 泉, 村上礼子, 中村美鈴: ペースメーカー埋め込み術を受けた成人への病棟看護師による退院後の日常生活についての看護支援の実施状況とその理由. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10: 35-46, 2012.

8) 北村露輝, 中村美鈴, 松浦利江子, 段ノ上秀雄: 看護師とのパートナーシップによる上部消化管がん患者の術後機能障害の緩和-術後6ヵ月間に着目して-. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10: 59-67, 2012.

(2) 学会発表

1) Noriko Fujiwara, Yoshiko Fukushima,

Naoka Kubo, Hiroko Nakahama, Izumi Kohara: The achievements and challenges of the Clinical Trial Nurse-Special Interest Group (CTN-SIG) of the Japanese Society of Cancer Nursing (JSCN), a poster presentation at the International Association of Clinical Research nurses 2012 conference, Houston, Texas. October 18 -20, 2012.

2) 村上礼子, 中村美鈴, 荒木智絵, 北村露輝, 松浦利江子, 段ノ上秀雄, 小原 泉: ICLSコース体験やワールドカフェを用いた演習の学生の学びとその効果. 日本看護学教育学会第22回学術集会, 福岡. 2012年8月4日.

3) 小原 泉, 藤原寛行, 竹井裕二, 町田静生, 鈴木光明, 本田芳香: 卵巣癌第Ⅲ相試験のインフォームドコンセントにおける患者の心理状態と理解度. 第50回日本癌治療学会一般演題 (示説), 横浜. 2012年10月25日.

4) 小原 泉: CRCは看護師, 薬剤師とどう役割分担するか. 第50回癌治療学会シンポジウム「臨床研究を支援するメディカルスタッフ-何ができるか, 何をするか-」, 横浜. 2012年10月26日.

5) 荒木智絵, 中村美鈴, 村上礼子, 段ノ上秀雄, 小原 泉, 松浦利江子, 北村露輝: 生命の危機状況にある成人の看護演習における学習効果 リアルティのある患者家族体験を取り入れて. 第14回日本救急看護学会学術集会, 東京. 2012年11月2日.

6) 中村美鈴, 浅田義和, 鈴木義彦, 村上礼子, 荒木智絵, 北村露輝, 松浦利江子, 段ノ上秀雄, 小原 泉: 看護学部4年生に対するチーム医療教育としてのワールドカフェ活用 実践報告および今後の課題. 第14回日本救急看護学会学術集会, 東京. 2012年11月2日.

7) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 松浦利江子, 北村露輝: ペースメーカー埋め込み術を受けた成人への退院後の日常生活についての看護支援の実態. 第32回日本看護科学学会学術集会, 東京. 2012年12月1日.

8) 小原 泉, 是恒之宏, 山崎晶司, 吉尾 卓, 本田芳香: 臨床研究コーディネーターによる被験者ケアの構造. 日本臨床試験研究会第4回学術集会, 札幌. 2013年2月7日

(3) 著書・総説

1) 中村美鈴：救急看護師の教育体制と実践 効果あり！先進施設での育成の取り組み 救急看護に携わる看護師の育成に必要な教育のあり方. 救急看護&トリアージ, 1 (6) ; 2-8, 2012.

2) 中村美鈴：看護における社会学的アプローチと実践（第1章）看護と社会学 双方からのアプローチ 看護学研究者の社会学的アプローチ 急性期看護への社会学的アプローチ. インターナショナルナーシングレビュー, 35(3) ; 31-35, 2012.

3) 中村美鈴：救急における患者・家族の意思決定に対する新たな提言. 日本救急看護学会雑誌, 14(3) ; 41, 2012.

4) 中村美鈴（編）：わかる！できる！急変時ケア第3版. 2012.

5) 村上礼子：急性心不全, わかる！できる！急変時ケア第3版. 中村美鈴（編）, 学研 ; 176-185, 2012.

(4) 実践報告

1) 茂呂悦子, 平良由香里, 鈴木典子, 中村美鈴：へき地における急性・重症患者看護専門看護師の活動の可能性と今後の課題－CNSの実習を通して－. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10 ; 87-92, 2012.

(5) 資料

1) 村上礼子, 松浦利江子, 小原 泉, 北村露輝, 段ノ上秀雄, 荒木智絵, 中村美鈴：看護過程演習における学生の困難感の対応と今後の課題. 自治医科大学看護学ジャーナル, 9 ; 64, 2012.

2) 村上礼子, 中村美鈴, 荒木智絵, 北村露輝, 松浦利江子, 段ノ上秀雄, 小原 泉：ICLSコース体験やワールドカフェを用いた演習の学生の学びとその効果. 日本看護学教育学会誌学術集会講演集, 22 ; 228, 2012.

3) 荒木智絵, 中村美鈴, 村上礼子, 段ノ上秀雄, 小原 泉, 松浦利江子, 北村露輝：生命の危機状況にある成人の看護演習における学習効果 リアリティのある患者家族体験を取り入れて. 日本救急看護学会雑誌, 14(3) ; 166, 2012.

4) 谷島雅子, 中村美鈴：救急看護師のDNAR (Do Not Attempt Resuscitation) の認識とDNAR選択後の入院患者家族に対する看護実践. 日本救急看護学会雑誌, 14(3) ; 177, 2012.

5) 渡邊好江, 中村美鈴：広範囲熱傷患者の受傷

時から社会復帰までの体験と看護支援の検討. 日本救急看護学会雑誌, 14(3) ; 199, 2012.

6) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 松浦利江子, 北村露輝：ペースメーカー埋め込み術を受けた成人への退院後の日常生活についての看護支援の実態. 日本看護科学学会学術集会講演集, 32 ; 257, 2012.

7) 細萱順一, 中村美鈴：食道がん患者の術後疼痛と開胸術後疼痛症候群発症の関連性（第2報）アセスメントの視点と看護支援の検討. 日本看護科学学会学術集会講演集, 32 ; 287, 2012.

8) 細萱順一, 中村美鈴：食道がん患者の術後疼痛と開胸術後疼痛症候群発症の関連性（第1報）術後疼痛評価の推移からの示唆. 日本看護科学学会学術集会講演集, 32 ; 286, 2012.

老年看護学

(1) 論文

1) 高野倉雅人, 川上 勝, 遠藤 誠, 西川昌宏, 武藤友和, 石黒圭応: 摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボードの開発, 日本福祉工学会誌, 14(2), 35-40, 2012.

(2) 学会発表

1) 川上 勝: 小型携帯端末を用いた簡易型所在確認システムの構築とその評価. 医療の質・安全学会, 埼玉県. 2012年10月25日. (医療の質・安全学会誌 7号 Supplement ; 387, 2012)

2) 宮林幸江: 二重悲嘆への吐露へのケア: 配偶者を看取った後に東日本大震災にて家を失う. 26回日本がん看護学術集会, 鳥取県. 2012年2月11日. (第26回 日本がん看護学会講演集 26巻 p 305, 2012)

(3) 著書・総説

1) 鈴木志津枝, 宮林幸江, 児玉久仁子: 家族のつながりを強めるグリーフケア (家族看護10巻2号). 日本看護協会出版会 (東京), 2012.

2) 宮林幸江, 関本昭治: はじめて学ぶグリーフケア, 日本看護協会出版会 (東京), 2012.

(4) 実践報告

1) 宮林幸江: 現代の社会福祉100の論点 大規模災害と福祉 「論点」家族を亡くした被災者のケア, 全国社会福祉協議会出版会, Vol 2 p 28-29, 2012

(5) 資料

1) 宮林幸江: グリーフケア—ターミナル後の悲嘆対応—. ターミナルケア最前線 QOLサービス, vol 33 p58-63, 2012

資 料

2012年度（平成24年度）看護学部学年暦

○前学期

4月2日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
4月3日（火）	授業開始（2・3・4年）
4月6日（金）	入学式，オリエンテーション（1年）
4月9日（月）	授業開始（1年）
4月28日（土）～5月6日（日）	春季休業
5月7日（月）～6月1日（金）	} 前学期実習（3年）
6月11日（月）～7月20日（金）	
5月14日（月）	創立記念日
6月4日（月）～6月8日（金）	対象の理解実習（1年）
7月12日（火）～7月13日（金）	定期試験（4年）
7月17日（火）～7月20日（金）	妊娠期助産学実習（4年）
7月23日（月）～8月3日（金）	総合実習（4年）
7月24日（火）～7月27日（金）	定期試験（1・2年）
8月4日（土）～9月30日（日）	夏季休業
8月29日（水）～8月31日（金）	再試験

○後学期

10月1日（月）	授業開始
9月3日（月）～10月5日（金）	分娩・育児期助産学実習（4年）
10月5日（金）～10月7日（日）	学園祭
11月19日（月）～12月7日（金）	日常生活援助実習（2年）
11月19日（月）～12月21日（金）	} 後学期実習（3年）
1月7日（月）～2月15日（金）	
12月22日（土）～1月3日（木）	冬季休業
2月12日（火）～2月15日（金）	定期試験（1・2年）
2月28日（木）～3月1日（金）	再試験
3月8日（金）	卒業式
3月20日（水）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成25年3月31日現在）

1. 教員数	46名
2. 学生数	426名
4年生（平成21年4月1日入学）	108名
3年生（平成22年4月1日入学）	109名
2年生（平成23年4月1日入学）	104名
1年生（平成24年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
教授	春山早苗	地域看護学
教授	大塚公一	看護基礎科
教授	大塚原節子	看護基礎科
教授	永井優子	精神看護学
教授	中井島登美子	小児看護学
教授	中村美鈴	成人看護学
教授	成田伸子	母性看護学
教授	野々山未希	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	基礎看護学
教授	宮林幸亮	老年看護学
教授	渡邊亮一	看護基礎科
准教授	大脇淳子	小児看護学
准教授	小原良子	成人看護学
准教授	齋藤やよい	母性看護学
准教授	里鈴木久美	地域看護学
准教授	鈴塚本友	地域看護学
准教授	浜端賢次	老年看護学
准教授	村上山礼子	成人看護学
准教授	横山由美	小児看護学
講師	飯塚秀令	看護基礎科
講師	宇川上勝	看護基礎科
講師	熊谷祐京	老年看護学
講師	小林京子	小児看護学
講師	清水みどり	老年看護学
講師	角川志穂	母性看護学
講師	千平尾温司	地域看護学
講師	松浦利江	看護基礎科
助教	宮城純子	成人看護学
助教	青木さぎ	地域看護学
助教	荒木智直	成人看護学
助教	板橋直輝	成人看護学
助教	北村露子	成人看護学
助教	小池純子	成人看護学
助教	小松幸恵	老年看護学
助教	小島田裕子	地域看護学
助教	関山詩穂	地域看護学
助教	高滝恵津	基礎看護学
助教	段ノ上秀雄	基礎看護学
助教	望月明見	成人看護学
助教	谷部仁子	母性看護学
助教	湯山美杉	基礎看護学

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	川村廣栄
大学事務副部長 (看護学部担当)	石崎雅司

(看護総務課)

職名	氏名
課長	加納秀樹
参事(兼)課長補佐	加半田美治
課長補佐(兼)係長	大石千代平
主事	大富川修平
嘱託	能美佐和子
嘱託	中能村里子

(看護学務課)

職名	氏名
課長	大垣利行
参事(兼)課長補佐	大豊田早苗
係長	湯浅芳公
主事	榊藤真一
主事	佐藤真理
主事	三原央子
嘱託	高槻祥

※平成24年4月1日～平成25年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2012年度（平成24年度）大学院看護学研究科学年曆

○前期

4月5日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月12日（木）	履修計画の提出締切
5月14日（月）	創立記念日

○後期

10月1日（月）	授業開始
11月9日（金）	研究構想発表会
12月17日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
1月25日（金）～1月31日（木）	論文審査・口頭試問
2月18日（月）	学位論文発表会（最終試験）
3月4日（月）	学位論文（保存用）提出締切
3月15日（金）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成25年3月31日現在）

1. 教員数	24名
2. 学生数	16名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	10（4）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	4（2）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
教授	春山早苗	地域看護管理学
教授	大塚公一郎	共通科目
教授	塚原節子	看護技術開発学
教授	永井優子	精神看護学
教授	中島登美子	小児看護学
教授	中村美鈴	クリティカルケア看護学
教授	成田伸	母性看護学
教授	野々山未希子	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	がん看護学
教授	宮林幸江	老年看護管理学
教授	渡邊亮一	共通科目
准教授	大脇淳子	小児看護学
准教授	小原泉	がん看護学
准教授	齋藤良子	母性看護学
准教授	里光やよい	看護技術開発学
准教授	鈴木久美子	地域看護管理学
准教授	塚本友栄	地域看護管理学
准教授	浜端賢次	老年看護管理学
准教授	村上礼子	クリティカルケア看護学
准教授	横山由美	小児看護学
講師	宇城令	看護技術開発学
講師	角川志穂	母性看護学
講師	松浦利江子	クリティカルケア看護学

※平成24年4月1日～平成25年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	川村廣栄
大学事務副部長 (看護学部担当)	石崎雅司

(看護総務課)

職名	氏名
課長	加納秀樹
参事(兼)課長補佐	半田美治
課長補佐(兼)係長	大石千代
主事	富川修平
嘱託	能美佐和子
嘱託	中村里子

(看護学務課)

職名	氏名
課長	大垣利行
参事(兼)課長補佐	豊田早苗
係長	湯浅芳恵
主事	榊公一
主事	佐藤真美
主事	三原理央
嘱託	高槻祥子

編 集 後 記

皆様方の多くのご協力により、本号上梓の運びとなりました。

平成24年度は、本学大学院看護学研究科にとっては、博士後期課程開設、本学看護学部にとっては、新カリキュラムの開始年度となりました。

本号では、本学看護研究科と本学部が、その独自の存在意義を社会に示していくうえで重要なこれらの出来事の経緯について、研究科長、教務委員長にお忙しい中、特別に原稿をご執筆いただきました

また、教員の皆様、編集作業にご協力いただいた事務職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。本年報もまた、本学の教育・研究の活性化に寄与し、看護学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、次号以降も努めてまいります。

皆様の一層のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

（平成26年3月 編集委員会副委員長 大塚 公一郎）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 中村 美鈴

副委員長 大塚公一郎

委員 鈴木久美子

角川 志穂

平尾 温司

清水みどり

編集担当 看護総務課

森下寿美子

富川 修平

自治医科大学看護学部年報(第11号)
自治医科大学大学院看護学研究科年報(第7号)

平成26年3月31日発行

発行者	学部長(研究科長)	春山早苗
編集責任者	編集委員会委員長	中村美鈴
発行所	自治医科大学看護学部	
	栃木県下野市薬師寺3311-159	
	電話	0285(58)7409
印刷所	(株)松井ビ・テ・オ・印刷	
	栃木県宇都宮市陽東5-9-21	
	電話	028(662)2511(代)